Business　Survey　Index　　令和 2 年 1-3 月 第 125 回

企業経営者意識調査

1 令和 2 年 1-3 月の概要　P 1

2 調査結果

1　経営状況　P 4
2　雇用状況　P 8
3　在庫、価格水準　P 12
4　設備投資の状況　P 14
5　地域別にみる各産業の動向　P 16
6　道内の景況感　P 24
7　業種・地域別企業経営者の声　P 25
8　業況感の長期推移　P 34

3 特別調査

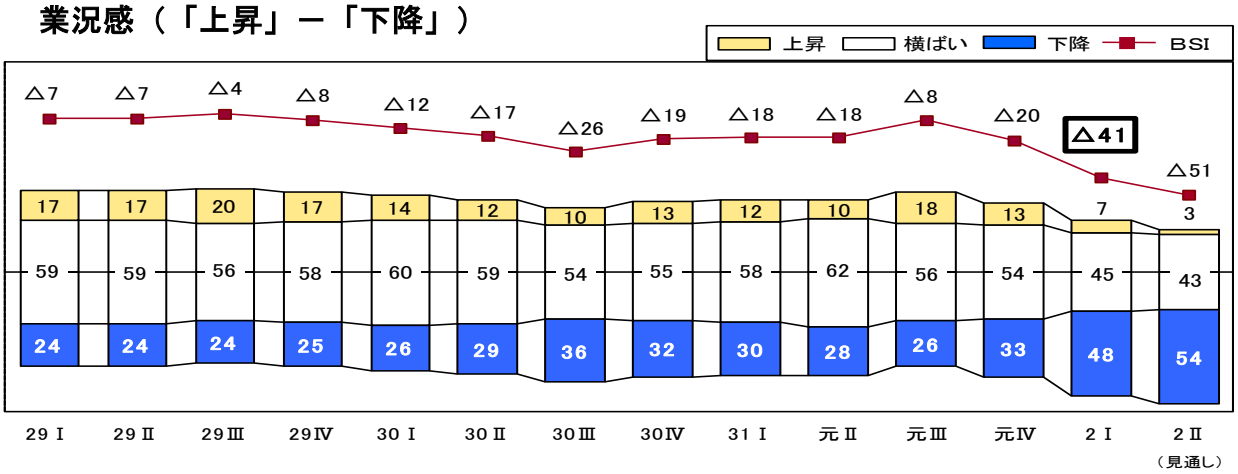
1　令和元年 10 月における消費税率引き上げについて　P 35
2　新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について　P 36

4 調査方法　P 39

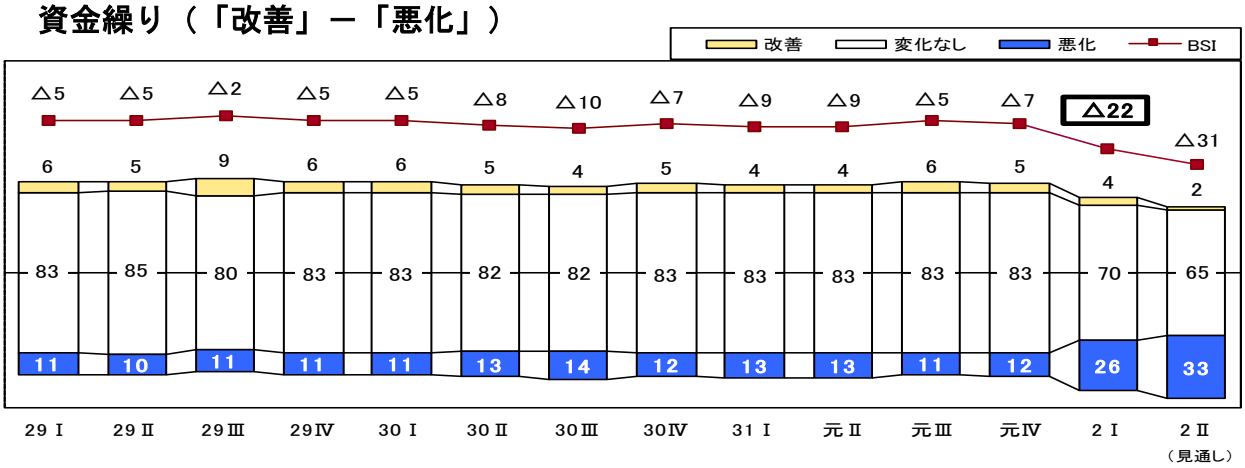
1　令和２年 1-3 月の概要

□ 調査対象企業数 900 社、回答社数 628 社、回答率 69.8%
□ 業況感は、前期から 21 ポイント下降し、△41 ポイント。（２期連続で下降）
・ 業種別では、すべての業種で下降。
・ 地域別では、すべての地域で下降。
・ 来期（4-6 月）見通しは、今期から 10 ポイント下降し、△51 ポイント。
□ 資金繰りは、前期から 15 ポイント下降し、△22 ポイント。
□ 雇用者の不足感は、前期から 6 ポイント下降し、40 ポイント。

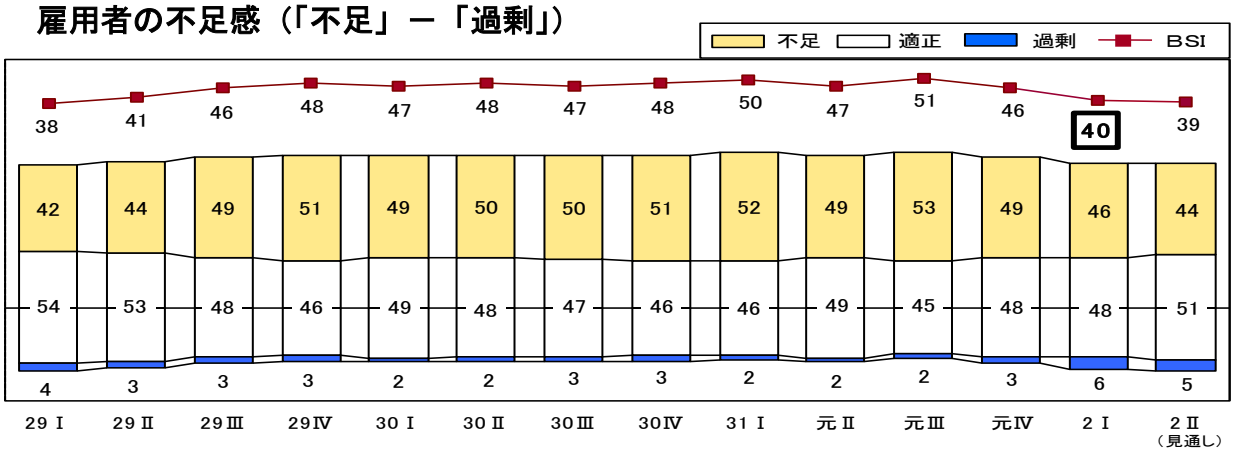
1　業況感（「上昇」－「下降」）



2　資金繰り（「改善」－「悪化」）



3　雇用者の不足感（「不足」－「過剰」）



4　業種・地域別の業況感

（1） 実績と見通し

区 分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総 計		△ 20	7	45	48	△ 41	△ 21	3	43	54	△ 51	△ 10
業種	建設業	△ 7	12	66	22	△ 10	△ 3	5	63	32	△ 27	△ 17
	製造業	△ 15	9	51	40	△ 31	△ 16	4	51	45	△ 41	△ 10
	卸売･小売業	△ 36	2	40	58	△ 56	△ 20	2	30	68	△ 66	△ 10
	運輸業	△ 21	9	39	52	△ 43	△ 22	3	42	55	△ 52	△ 9
	サービス業	△ 16	6	38	56	△ 50	△ 34	1	39	60	△ 59	△ 9
資本金	5千万円未満	△ 26	5	42	53	△ 48	△ 22	3	41	56	△ 53	△ 5
	5千万以上～1億円未満	△ 9	9	51	40	△ 31	△ 22	2	44	54	△ 52	△ 21
	1億円以上	△ 5	16	51	33	△ 17	△ 12	3	55	42	△ 39	△ 22
地域	道南	△ 39	4	37	59	△ 55	△ 16	2	43	55	△ 53	2
	道央	△ 9	10	48	42	△ 32	△ 23	3	47	50	△ 47	△ 15
	道北	△ 18	7	44	49	△ 42	△ 24	4	42	54	△ 50	△ 8
	オホーツク	△ 27	3	48	49	△ 46	△ 19	1	47	52	△ 51	△ 5
	十勝	△ 25	7	40	53	△ 46	△ 21	0	40	60	△ 60	△ 14
	釧路･根室	△ 21	5	48	47	△ 42	△ 21	3	36	61	△ 58	△ 16

（2） 主な上昇･下降業種（中分類）

大分類	上昇業種	下降業種
建設業 （▲7→▲10）		総合工事業（▲8→▲11）、設備工事業（9→▲9）
製造業 （▲15→▲31）	輸送用機械器具製造業 （▲33→▲29）	食料品製造業（▲7→▲35） 木材・木製品製造業（▲10→▲50） パルプ・紙・紙加工品製造業（▲25→▲60） 化学工業（▲17→▲20） 窯業・土石製品製造業（▲33→▲50） 金属製品製造業（▲14→▲50） 生産用機械器具製造業（▲13→▲46）
卸売･小売業 （▲36→▲56）	建築材料、鉱物・ 金属材料等卸売業 （▲43→▲27）	繊維・衣類等卸売業（▲25→▲40） 飲食料品卸売業（▲29→▲65） 機械器具卸売業（20→▲11）、その他の卸売業（0→▲40） 織物･衣服･身の回り品小売業（▲80→▲83） 飲食料品小売業（▲8→▲54）、機械器具小売業（▲64→▲72） その他の小売業（▲59→▲78）
運輸業 （▲21→▲43）		道路旅客運送業（▲50→▲92） 道路貨物運送業（▲22→▲32）、倉庫業（24→5）
サービス業 （▲16→▲50）	廃棄物処理業 （▲33→0）	情報サービス業（5→0）、物品賃貸業（10→▲8） 技術サービス業（▲17→▲26）、宿泊業（▲52→▲98） 飲食店（15→▲73）、洗濯･理容･美容･浴場業（▲22→▲46） その他の生活関連サービス業（▲16→▲100） 娯楽業（▲33→▲67）、自動車整備業（▲5→▲50） 機械等修理業（50→17）、職業紹介･労働者派遣業（0→▲40） その他の事業サービス業（50→0）

（括弧内の数字は、前期→今期の変化）

（３）地域別の上昇･下降業種（大分類）

地　域	上昇業種	下降業種
道南（▲39→▲55）	建設業（▲25→▲15） 卸売･小売業（▲81→▲61）	製造業（▲27→▲50） 運輸業（▲30→▲44） サービス業（▲28→▲80）
道央（▲9→▲32）	建設業（▲6→0）	製造業（▲13→▲33） 卸売･小売業（▲18→▲47） 運輸業（▲3→▲27） サービス業（▲6→▲35）
道北（▲18→▲42）		建設業（17→▲13）、製造業（▲5→▲30） 卸売･小売業（▲50→▲69） 運輸業（▲50→▲63） サービス業（▲23→▲41）
オホーツク（▲27→▲46）	製造業（▲20→▲17）	建設業（▲18→▲31） 卸売･小売業（▲25→▲62） 運輸業（▲27→▲50） サービス業（▲46→▲65）
十勝（▲25→▲46）	卸売･小売業（▲73→▲71）	製造業（0→▲29） 運輸業（▲15→▲42） サービス業（▲23→▲63）
釧路･根室（▲21→▲42）	製造業（▲33→▲18）	卸売･小売業（▲27→▲46） 運輸業（▲31→▲46） サービス業（▲13→▲72）

（括弧内の数字は、前期→今期の変化）

2　調査結果

1　経営状況

（1）　業況感

今期の業況感ＢＳＩは △ 41　（前期から 21 ポイント下降）

・業種別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の業況感ＢＳＩは △ 51　（今期から 10 ポイント下降）

図1-(1) 業況感

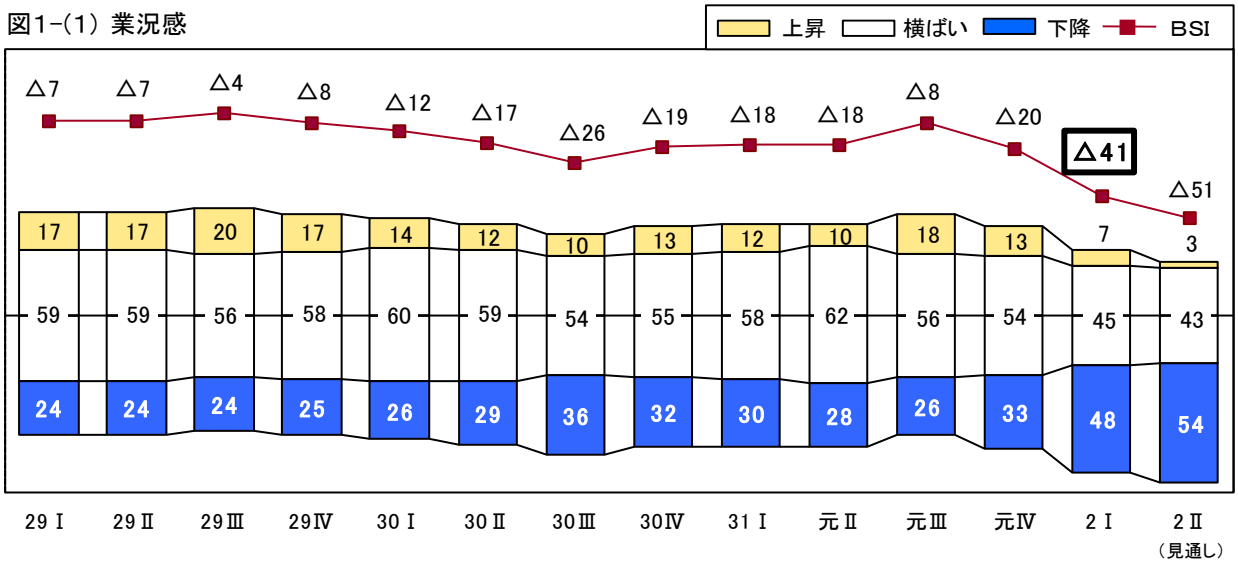


表1-(1)　業況感（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総　計		△ 20	7	45	48	△ 41	△ 21	3	43	54	△ 51	△ 10
	札幌市を除く	△ 25	5	44	51	△ 46	△ 21	2	43	55	△ 53	△ 7
	札幌市	3	14	51	35	△ 21	△ 24	3	48	49	△ 46	△ 25
業種	建設業	△ 7	12	66	22	△ 10	△ 3	5	63	32	△ 27	△ 17
	製造業	△ 15	9	51	40	△ 31	△ 16	4	51	45	△ 41	△ 10
	卸売･小売業	△ 36	2	40	58	△ 56	△ 20	2	30	68	△ 66	△ 10
	運輸業	△ 21	9	39	52	△ 43	△ 22	3	42	55	△ 52	△ 9
	サービス業	△ 16	6	38	56	△ 50	△ 34	1	39	60	△ 59	△ 9
資本金	5千万円未満	△ 26	5	42	53	△ 48	△ 22	3	41	56	△ 53	△ 5
	5千万以上～1億円未満	△ 9	9	51	40	△ 31	△ 22	2	44	54	△ 52	△ 21
	1億円以上	△ 5	16	51	33	△ 17	△ 12	3	55	42	△ 39	△ 22
地域	道南	△ 39	4	37	59	△ 55	△ 16	2	43	55	△ 53	2
	道央	△ 9	10	48	42	△ 32	△ 23	3	47	50	△ 47	△ 15
	札幌市を除く	△ 22	5	45	50	△ 45	△ 23	3	45	52	△ 49	△ 4
	札幌市	3	14	51	35	△ 21	△ 24	3	48	49	△ 46	△ 25
	道北	△ 18	7	44	49	△ 42	△ 24	4	42	54	△ 50	△ 8
	オホーツク	△ 27	3	48	49	△ 46	△ 19	1	47	52	△ 51	△ 5
	十勝	△ 25	7	40	53	△ 46	△ 21	0	40	60	△ 60	△ 14
	釧路･根室	△ 21	5	48	47	△ 42	△ 21	3	36	61	△ 58	△ 16

（２）　売上（生産）高

今期の売上（生産）高ＢＳＩは △ 38　（前期から 22 ポイント下降）

・業種別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の売上（生産）高ＢＳＩは △ 48　（今期から 10 ポイント下降）

図1-(2) 売上(生産)高

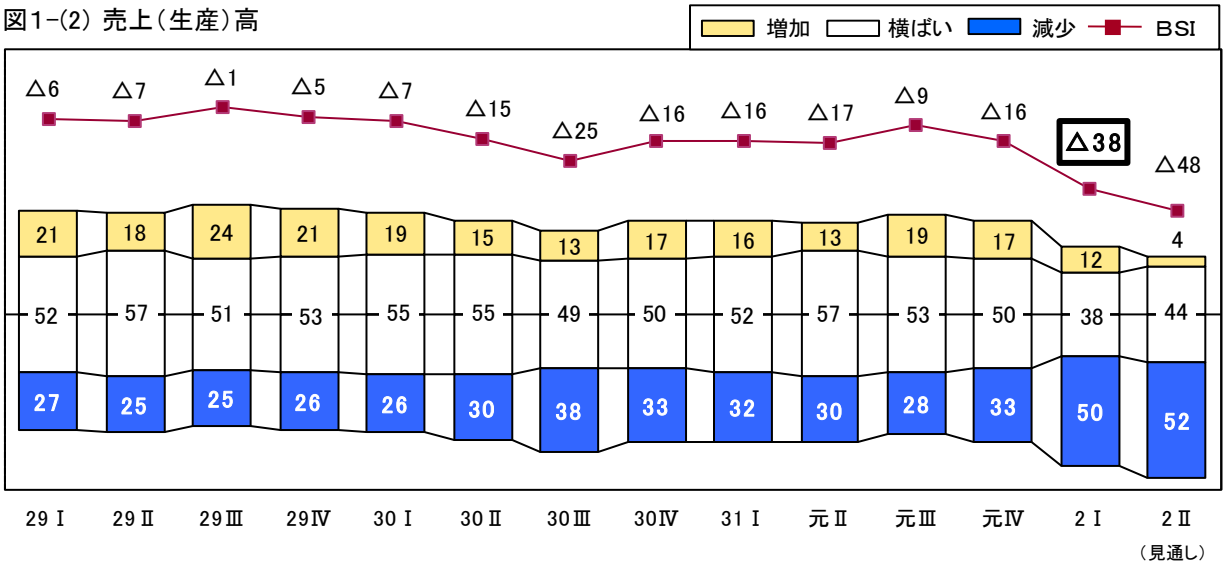


表1-(2)　売上(生産)高(業種・資本金・地域別)

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総　計		△ 16	12	38	50	△ 38	△ 22	4	44	52	△ 48	△ 10
	札幌市を除く	△ 22	9	39	52	△ 43	△ 21	3	43	54	△ 51	△ 8
	札幌市	7	20	40	40	△ 20	△ 27	5	50	45	△ 40	△ 20
業種	建設業	△ 1	23	51	26	△ 3	△ 2	7	61	32	△ 25	△ 22
	製造業	△ 10	15	42	43	△ 28	△ 18	4	51	45	△ 41	△ 13
	卸売･小売業	△ 35	4	34	62	△ 58	△ 23	2	35	63	△ 61	△ 3
	運輸業	△ 16	11	37	52	△ 41	△ 25	5	40	55	△ 50	△ 9
	サービス業	△ 14	9	35	56	△ 47	△ 33	2	40	58	△ 56	△ 9
資本金	5千万円未満	△ 24	9	38	53	△ 44	△ 20	3	43	54	△ 51	△ 7
	5千万以上～1億円未満	1	17	39	44	△ 27	△ 28	3	43	54	△ 51	△ 24
	1億円以上	0	18	43	39	△ 21	△ 21	4	54	42	△ 38	△ 17
地域	道南	△ 23	8	33	59	△ 51	△ 28	2	41	57	△ 55	△ 4
	道央	△ 9	14	39	47	△ 33	△ 24	4	47	49	△ 45	△ 12
	札幌市を除く	△ 26	9	36	55	△ 46	△ 20	3	44	53	△ 50	△ 4
	札幌市	7	20	40	40	△ 20	△ 27	5	50	45	△ 40	△ 20
	道北	△ 17	11	38	51	△ 40	△ 23	4	45	51	△ 47	△ 7
	オホーツク	△ 27	6	45	49	△ 43	△ 16	3	41	56	△ 53	△ 10
	十勝	△ 18	12	37	51	△ 39	△ 21	2	40	58	△ 56	△ 17
	釧路･根室	△ 16	11	45	44	△ 33	△ 17	3	45	52	△ 49	△ 16

（３）　経常利益

今期の経常利益ＢＳＩは △ 39 （前期から 18 ポイント下降）

・業種別にみると、建設業でマイナス幅が縮小、製造業、卸売・小売業、運輸業、サービス業でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の経常利益ＢＳＩは △ 50（今期から 11 ポイント下降）

図1-(3) 経常利益

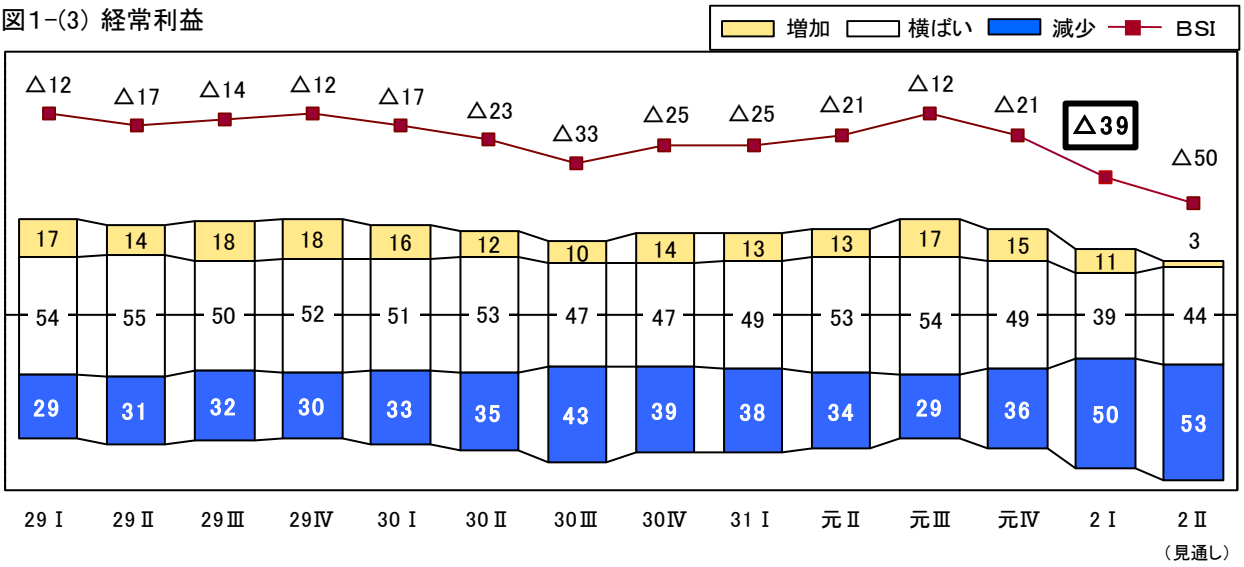


表1-(3) 経常利益（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年10-12月実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総　計		△ 21	11	39	50	△ 39	△ 18	3	44	53	△ 50	△ 11
	札幌市を除く	△ 26	9	38	53	△ 44	△ 18	3	41	56	△ 53	△ 9
	札幌市	1	21	40	39	△ 18	△ 19	6	52	42	△ 36	△ 18
業種	建設業	△ 13	20	49	31	△ 11	2	5	59	36	△ 31	△ 20
	製造業	△ 20	12	45	43	△ 31	△ 11	3	51	46	△ 43	△ 12
	卸売･小売業	△ 24	5	39	56	△ 51	△ 27	5	36	59	△ 54	△ 3
	運輸業	△ 24	15	34	51	△ 36	△ 12	3	41	56	△ 53	△ 17
	サービス業	△ 21	9	31	60	△ 51	△ 30	2	39	59	△ 57	△ 6
資本金	5千万円未満	△ 27	9	37	54	△ 45	△ 18	3	43	54	△ 51	△ 6
	5千万以上～1億円未満	△ 13	15	37	48	△ 33	△ 20	3	40	57	△ 54	△ 21
	1億円以上	△ 1	19	45	36	△ 17	△ 16	6	54	40	△ 34	△ 17
地域	道南	△ 31	8	29	63	△ 55	△ 24	2	39	59	△ 57	△ 2
	道央	△ 11	15	39	46	△ 31	△ 20	5	47	48	△ 43	△ 12
	札幌市を除く	△ 24	8	39	53	△ 45	△ 21	3	43	54	△ 51	△ 6
	札幌市	1	21	40	39	△ 18	△ 19	6	52	42	△ 36	△ 18
	道北	△ 24	11	41	48	△ 37	△ 13	3	44	53	△ 50	△ 13
	オホーツク	△ 25	9	40	51	△ 42	△ 17	2	43	55	△ 53	△ 11
	十勝	△ 30	7	38	55	△ 48	△ 18	2	41	57	△ 55	△ 7
	釧路･根室	△ 27	8	43	49	△ 41	△ 14	3	40	57	△ 54	△ 13

（４）　資金繰り

今期の資金繰りＢＳＩは △ 22 （前期から 15 ポイント下降）

・業種別にみると、建設業でマイナス幅が縮小、製造業、卸売・小売業、運輸業、サービス業でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の資金繰りＢＳＩは △ 31（今期から 9 ポイント下降）

図1-(4) 資金繰り

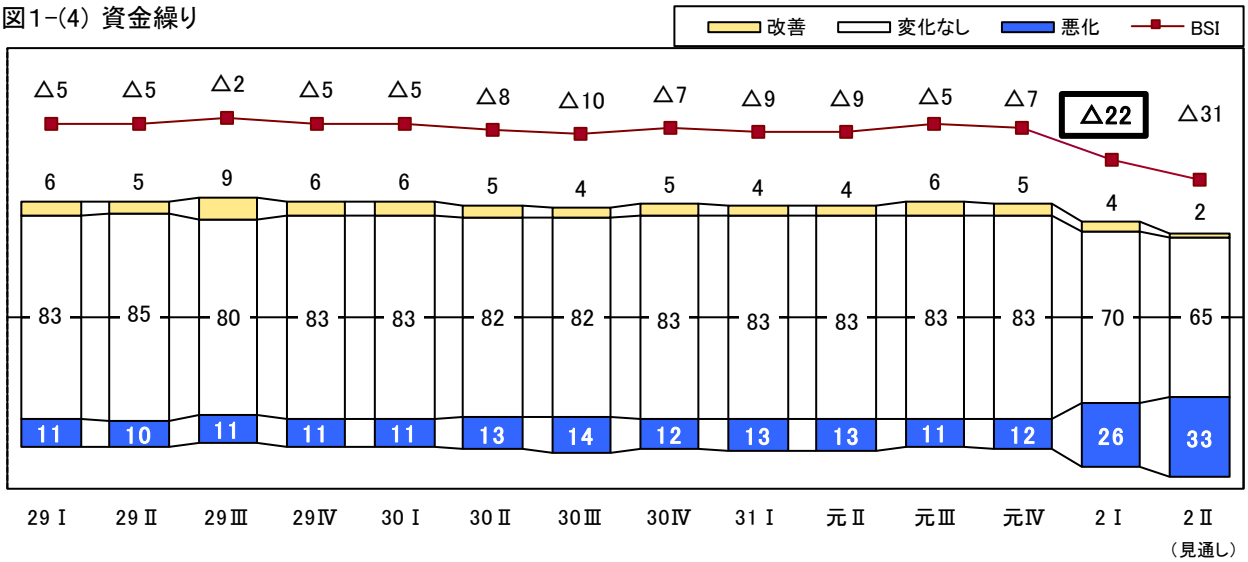


表1-(4) 資金繰り（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅	改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅
総　計		△ 7	4	70	26	△ 22	△ 15	2	65	33	△ 31	△ 9
	札幌市を除く	△ 10	3	68	29	△ 26	△ 16	2	62	36	△ 34	△ 8
	札幌市	3	6	77	17	△ 11	△ 14	4	73	23	△ 19	△ 8
業種	建設業	△ 4	6	87	7	△ 1	3	3	87	10	△ 7	△ 6
	製造業	△ 7	3	74	23	△ 20	△ 13	1	72	27	△ 26	△ 6
	卸売･小売業	△ 10	3	72	25	△ 22	△ 12	2	64	34	△ 32	△ 10
	運輸業	△ 8	5	71	24	△ 19	△ 11	4	58	38	△ 34	△ 15
	サービス業	△ 8	3	58	39	△ 36	△ 28	1	53	46	△ 45	△ 9
資本金	5千万円未満	△ 10	3	67	30	△ 27	△ 17	2	62	36	△ 34	△ 7
	5千万以上～1億円未満	△ 5	6	71	23	△ 17	△ 12	2	65	33	△ 31	△ 14
	1億円以上	△ 3	6	80	14	△ 8	△ 5	3	78	19	△ 16	△ 8
地域	道南	△ 6	1	58	41	△ 40	△ 34	0	55	45	△ 45	△ 5
	道央	△ 5	5	73	22	△ 17	△ 12	3	69	28	△ 25	△ 8
	札幌市を除く	△ 14	4	68	28	△ 24	△ 10	3	62	35	△ 32	△ 8
	札幌市	3	6	77	17	△ 11	△ 14	4	73	23	△ 19	△ 8
	道北	△ 7	6	74	20	△ 14	△ 7	3	65	32	△ 29	△ 15
	オホーツク	△ 6	0	72	28	△ 28	△ 22	0	65	35	△ 35	△ 7
	十勝	△ 11	0	69	31	△ 31	△ 20	0	65	35	△ 35	△ 4
	釧路･根室	△ 15	7	70	23	△ 16	△ 1	3	60	37	△ 34	△ 18

２　雇用状況

（１）　雇用者総数

今期の雇用者総数ＢＳＩは △ 8（前期から３ポイント下降）

・業種別にみると、建設業でプラス幅が縮小、製造業、卸売・小売業でマイナス幅が縮小、サービス業がマイナスに転換、運輸業でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、釧路・根室がプラスに転換、道央がマイナスに転換、道南、道北、オホーツク、十勝でマイナス幅が拡大

来期の雇用者総数ＢＳＩは △ 4　（今期から４ポイント上昇）

図2－(1)　雇用者総数

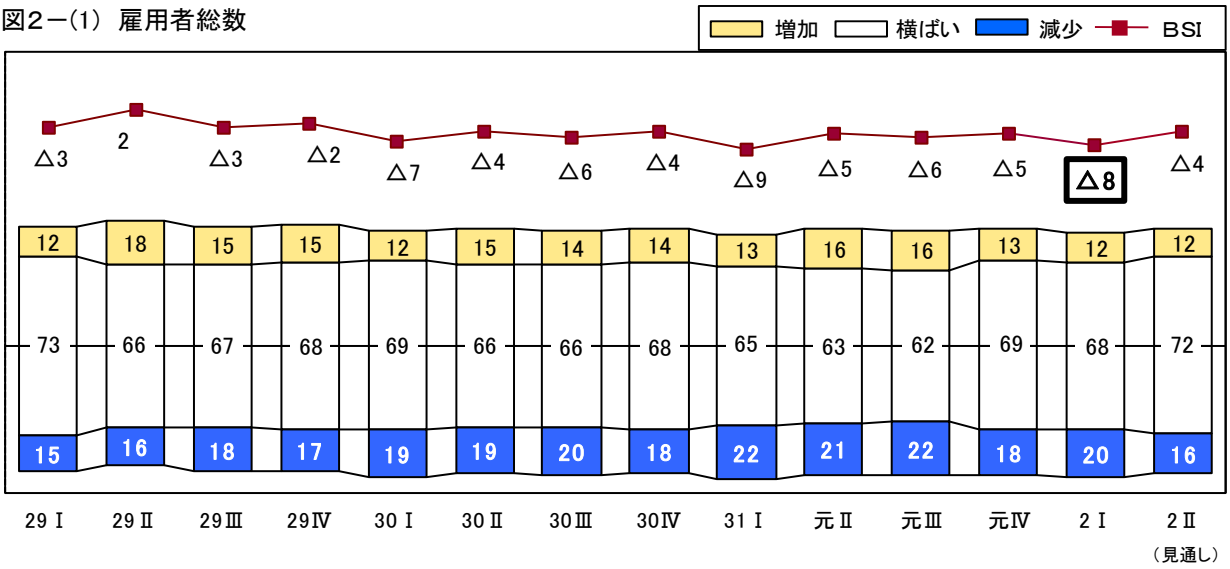


表2-(1)　雇用者総数（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年10-12月実績BSI	R2年1-3月実績 増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	R2年4-6月見通し 増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総　計		△ 5	12	68	20	△ 8	△ 3	12	72	16	△ 4	4
	札幌市を除く	△ 8	10	68	22	△ 12	△ 4	10	71	19	△ 9	3
	札幌市	10	19	67	14	5	△ 5	19	74	7	12	7
業種	建設業	13	23	61	16	7	△ 6	23	68	9	14	7
	製造業	△ 9	15	65	20	△ 5	4	11	72	17	△ 6	△ 1
	卸売･小売業	△ 15	7	73	20	△ 13	2	7	79	14	△ 7	6
	運輸業	△ 14	8	68	24	△ 16	△ 2	13	68	19	△ 6	10
	サービス業	0	10	69	21	△ 11	△ 11	9	72	19	△ 10	1
資本金	5千万円未満	△ 8	8	72	20	△ 12	△ 4	8	76	16	△ 8	4
	5千万以上～1億円未満	△ 7	18	60	22	△ 4	3	17	63	20	△ 3	1
	1億円以上	10	21	58	21	0	△ 10	22	68	10	12	12
地域	道南	△ 3	9	76	15	△ 6	△ 3	11	72	17	△ 6	0
	道央	0	15	68	17	△ 2	△ 2	14	75	11	3	5
	札幌市を除く	△ 12	11	67	22	△ 11	1	9	74	17	△ 8	3
	札幌市	10	19	67	14	5	△ 5	19	74	7	12	7
	道北	△ 12	6	58	36	△ 30	△ 18	9	64	27	△ 18	12
	オホーツク	△ 8	8	75	17	△ 9	△ 1	9	79	12	△ 3	6
	十勝	△ 5	10	66	24	△ 14	△ 9	12	60	28	△ 16	△ 2
	釧路･根室	△ 7	18	66	16	2	9	11	79	10	1	△ 1

（２）　雇用者の不足感　（「不足」－「過剰」）

今期の雇用者の不足感ＢＳＩは 40（前期から６ポイント下降）

・業種別にみると、製造業、運輸業でプラス幅が拡大、建設業、卸売・小売、サービス業でプラス幅が縮小
・地域別にみると、道北でプラス幅が拡大、オホーツクで横ばい、道南、道央、十勝、釧路・根室でプラス幅が縮小

来期の雇用者の不足感ＢＳＩは 39（今期から１ポイント下降）

図２－(2) 雇用者の不足感

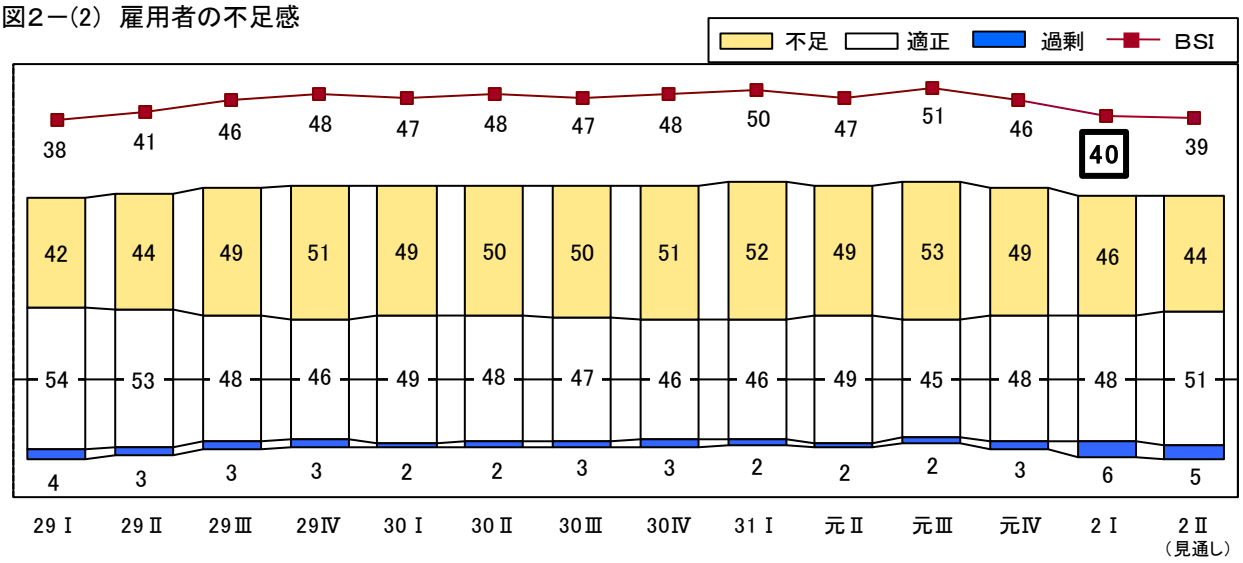


表2-(2) 雇用者の不足感（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			不足	適正	過剰	BSI	変化幅	不足	適正	過剰	BSI	変化幅
総　計		46	46	48	6	40	△ 6	44	51	5	39	△ 1
	札幌市を除く	47	48	46	6	42	△ 5	47	48	5	42	0
	札幌市	47	41	54	5	36	△ 11	35	59	6	29	△ 7
業種	建設業	71	59	40	1	58	△ 13	63	37	0	63	5
	製造業	41	44	54	2	42	1	42	57	1	41	△ 1
	卸売･小売業	36	36	55	9	27	△ 9	33	59	8	25	△ 2
	運輸業	57	64	34	2	62	5	60	39	1	59	△ 3
	サービス業	38	39	50	11	28	△ 10	35	54	11	24	△ 4
資本金	5千万円未満	44	43	51	6	37	△ 7	41	53	6	35	△ 2
	5千万以上～1億円未満	52	50	41	9	41	△ 11	51	43	6	45	4
	1億円以上	50	54	43	3	51	1	49	48	3	46	△ 5
地域	道南	46	38	56	6	32	△ 14	36	55	9	27	△ 5
	道央	45	43	52	5	38	△ 7	39	56	5	34	△ 4
	札幌市を除く	41	45	50	5	40	△ 1	44	52	4	40	0
	札幌市	47	41	54	5	36	△ 11	35	59	6	29	△ 7
	道北	49	59	37	4	55	6	59	40	1	58	3
	オホーツク	40	48	44	8	40	0	50	44	6	44	4
	十勝	59	47	42	11	36	△ 23	47	45	8	39	3
	釧路･根室	50	47	50	3	44	△ 6	44	51	5	39	△ 5

（３）　残業時間

今期の残業時間ＢＳＩは △ 32　（前期から 16 ポイント下降）

・業種別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の残業時間ＢＳＩは △ 33　（今期から１ポイント下降）

図2-(3) 残業時間

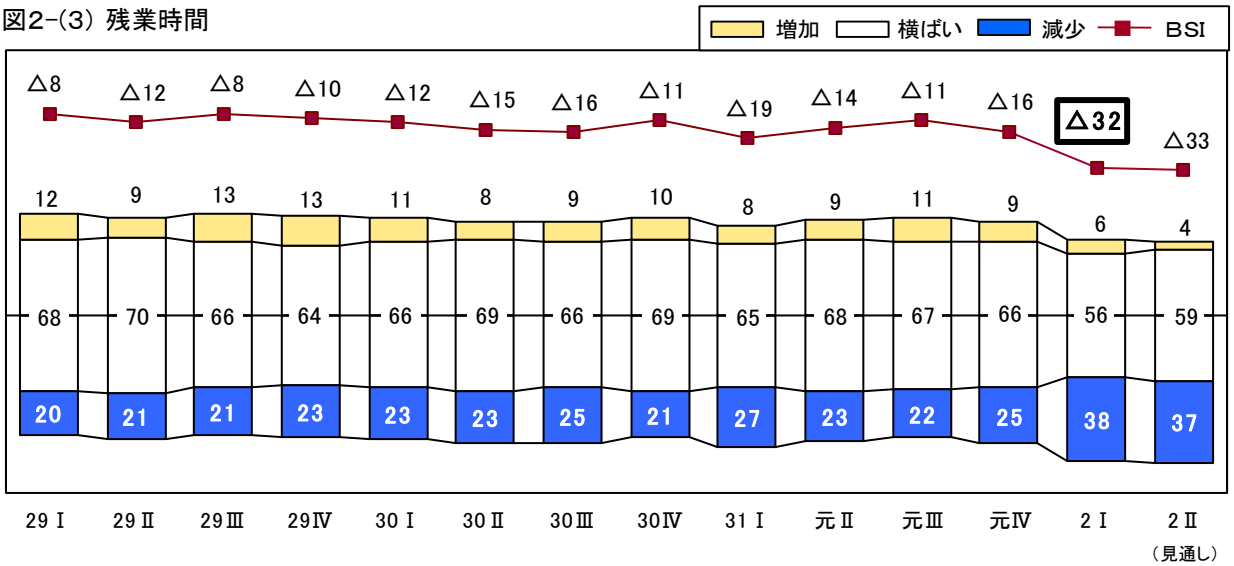


表2-(3) 残業時間（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総　計		△ 16	6	56	38	△ 32	△ 16	4	59	37	△ 33	△ 1
	札幌市を除く	△ 18	5	56	39	△ 34	△ 16	3	58	39	△ 36	△ 2
	札幌市	△ 8	11	53	36	△ 25	△ 17	5	65	30	△ 25	0
業種	建設業	△ 22	5	66	29	△ 24	△ 2	2	73	25	△ 23	1
	製造業	△ 12	9	59	32	△ 23	△ 11	5	66	29	△ 24	△ 1
	卸売･小売業	△ 10	2	60	38	△ 36	△ 26	3	65	32	△ 29	7
	運輸業	△ 6	10	53	37	△ 27	△ 21	8	51	41	△ 33	△ 6
	サービス業	△ 23	6	46	48	△ 42	△ 19	2	49	49	△ 47	△ 5
資本金	5千万円未満	△ 17	5	55	40	△ 35	△ 18	4	57	39	△ 35	0
	5千万以上～1億円未満	△ 10	6	57	37	△ 31	△ 21	1	62	37	△ 36	△ 5
	1億円以上	△ 16	13	54	33	△ 20	△ 4	7	68	25	△ 18	2
地域	道南	△ 26	4	53	43	△ 39	△ 13	1	56	43	△ 42	△ 3
	道央	△ 12	9	55	36	△ 27	△ 15	5	62	33	△ 28	△ 1
	札幌市を除く	△ 16	5	57	38	△ 33	△ 17	5	59	36	△ 31	2
	札幌市	△ 8	11	53	36	△ 25	△ 17	5	65	30	△ 25	0
	道北	△ 20	4	58	38	△ 34	△ 14	4	56	40	△ 36	△ 2
	オホーツク	△ 20	0	62	38	△ 38	△ 18	3	64	33	△ 30	8
	十勝	△ 10	6	51	43	△ 37	△ 27	2	56	42	△ 40	△ 3
	釧路･根室	△ 12	8	57	35	△ 27	△ 15	2	60	38	△ 36	△ 9

（４）　１人当たり賃金

今期の１人当たり賃金ＢＳＩは 21（前期から 14 ポイント下降）

・業種別にみると、すべての業種でプラス幅が縮小
・地域別にみると、すべての地域でプラス幅が縮小

来期の１人当たり賃金ＢＳＩは 14 （今期から７ポイント下降）

図2-(4) 1人当たり賃金

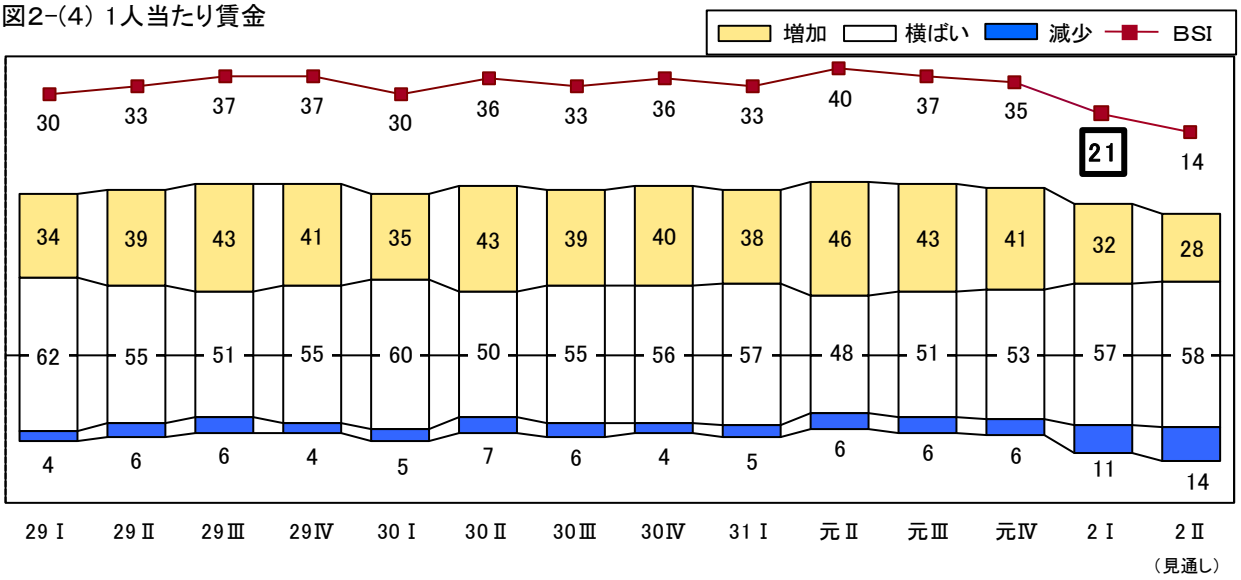


表2-(4)　１人当たり賃金（業種・資本金・地域別）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総　計		35	32	57	11	21	△ 14	28	58	14	14	△ 7
	札幌市を除く	34	30	59	11	19	△ 15	27	59	14	13	△ 6
	札幌市	38	39	50	11	28	△ 10	32	55	13	19	△ 9
業種	建設業	48	45	53	2	43	△ 5	43	56	1	42	△ 1
	製造業	41	36	57	7	29	△ 12	30	62	8	22	△ 7
	卸売･小売業	33	33	59	8	25	△ 8	30	61	9	21	△ 4
	運輸業	29	26	56	18	8	△ 21	24	56	20	4	△ 4
	サービス業	28	25	58	17	8	△ 20	19	57	24	△ 5	△ 13
資本金	5千万円未満	29	28	58	14	14	△ 15	24	60	16	8	△ 6
	5千万以上～1億円未満	53	39	53	8	31	△ 22	33	52	15	18	△ 13
	1億円以上	36	42	54	4	38	2	37	60	3	34	△ 4
地域	道南	28	33	51	16	17	△ 11	27	58	15	12	△ 5
	道央	36	33	56	11	22	△ 14	27	59	14	13	△ 9
	札幌市を除く	34	26	63	11	15	△ 19	21	63	16	5	△ 10
	札幌市	38	39	50	11	28	△ 10	32	55	13	19	△ 9
	道北	34	35	55	10	25	△ 9	36	50	14	22	△ 3
	オホーツク	30	27	65	8	19	△ 11	31	58	11	20	1
	十勝	39	27	55	18	9	△ 30	20	61	19	1	△ 8
	釧路・根室	40	29	65	6	23	△ 17	25	67	8	17	△ 6

３　在庫、価格水準

（１）　製造業

今期の実績

・製品在庫水準は、前期と比べ、「過大」が拡大、「適正」が横ばい、「不足」が縮小
・仕入価格は、前期と比べ、「横ばい」が拡大、「下降」が横ばい、「上昇」が縮小
・製品価格は、前期と比べ、「横ばい」が拡大、「上昇」「下降」が縮小

来期の見通し

・製品在庫水準は、「不足」が拡大、「適正」「過大」が縮小
・仕入価格は、「横ばい」が拡大、「上昇」「下降」が縮小
・製品価格は、「下降」が拡大、「上昇」「横ばい」が縮小

図３－(1) 製品在庫水準

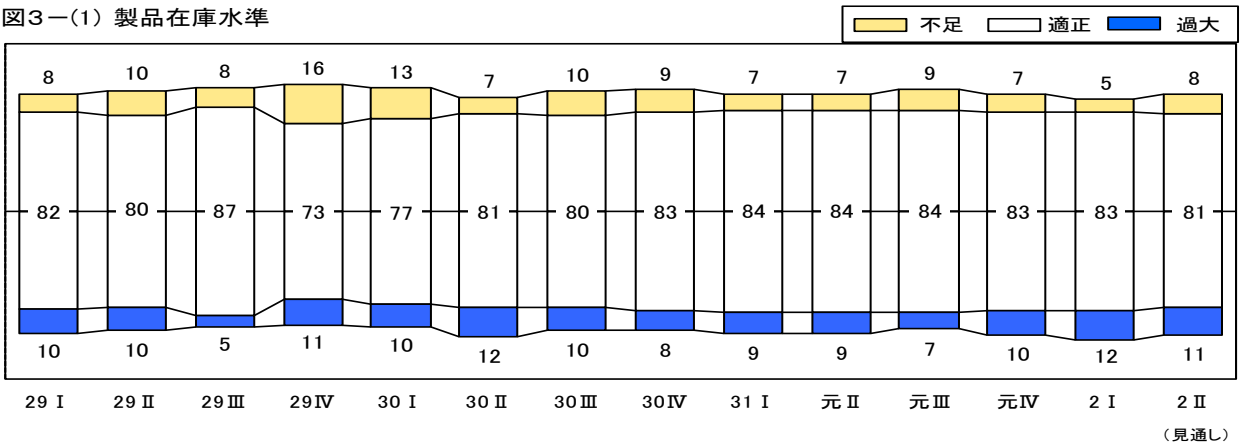


図３－(2) 仕入価格（原材料）

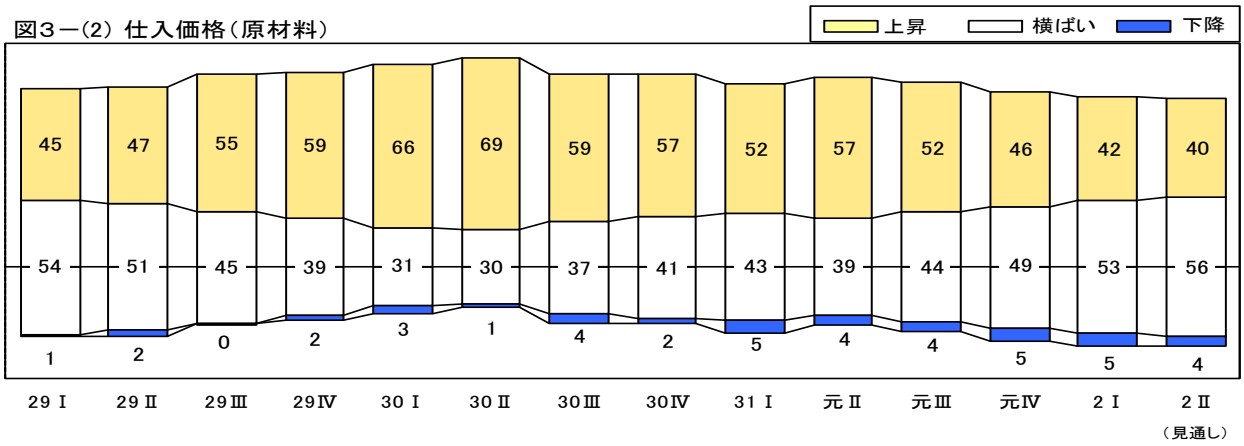
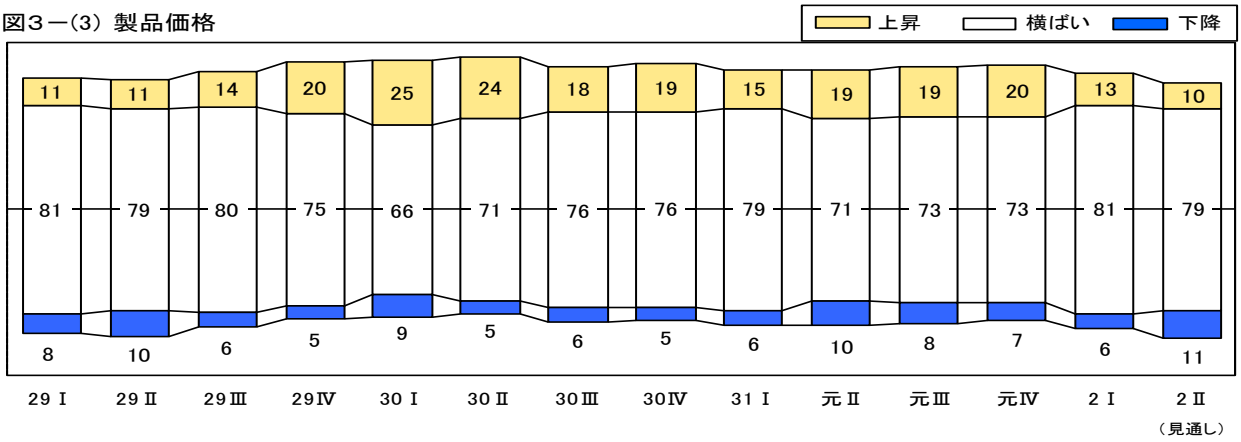


図３－(3) 製品価格



（２）　卸売・小売業

今期の実績

・商品在庫水準は、前期と比べ、「不足」が拡大、「過大」が横ばい、「適正」が縮小
・仕入価格は、前期と比べ、「横ばい」が拡大、「下降」が横ばい、「上昇」が縮小
・商品価格は、前期と比べ、「横ばい」が拡大、「下降」が横ばい、「上昇」が縮小

来期の見通し

・商品在庫水準は、「不足」が拡大、「過大」が縮小
・仕入価格は、「下降」が拡大、「上昇」が横ばい、「横ばい」が縮小
・商品価格は、「横ばい」「下降」が拡大、「上昇」が縮小

図３－(4) 商品在庫水準

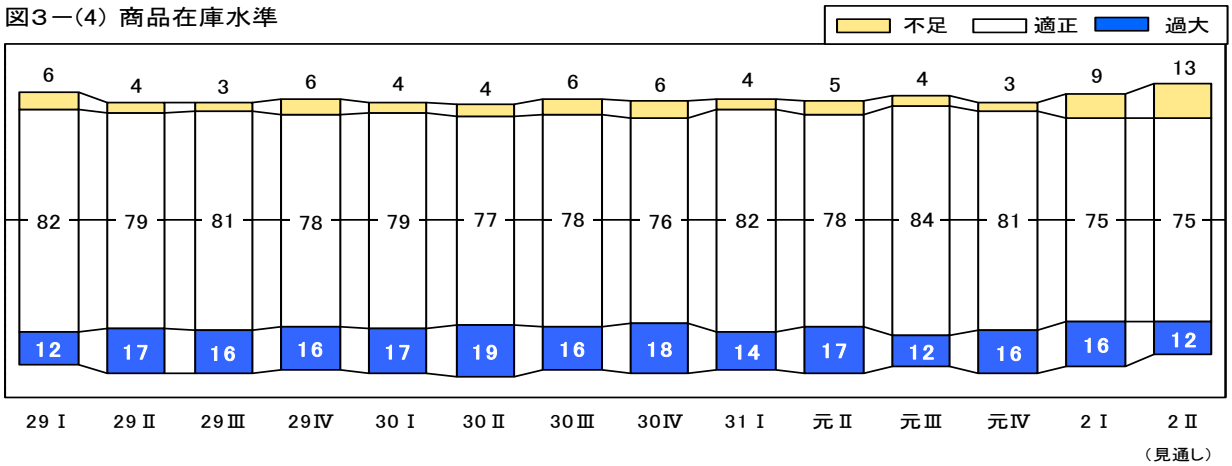


図３－(5) 仕入価格（商品）

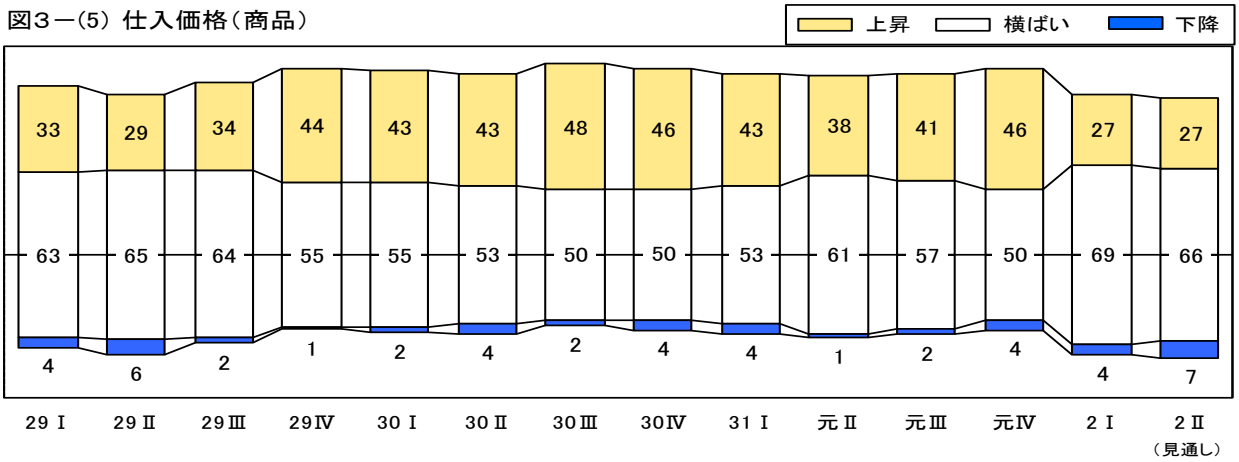
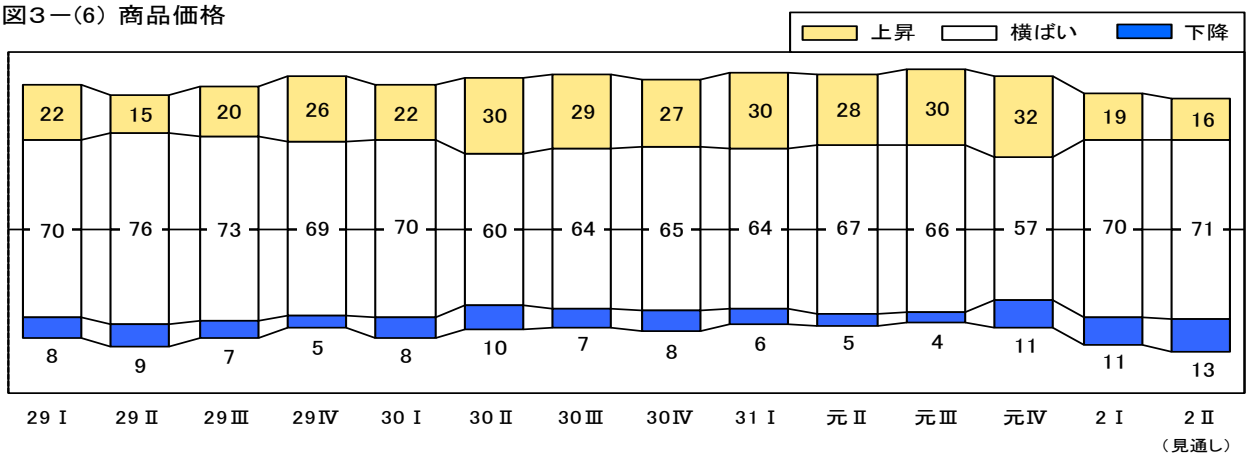


図３－(6) 商品価格



4　設備投資の状況

今期の実績

・「設備投資をした」と回答した企業は31%で、前期から7ポイント下降

・設備投資の目的については、「設備更新」が77%、「生産・販売能力拡大」が24%、「合理化・省力化」が19%（複数回答）

来期の見通し

・「設備投資をする」と回答した企業は31%で、今期から横ばい

・設備投資の目的については、「設備更新」が75%、「生産・販売能力拡大」が26%、「合理化・省力化」が25%（複数回答）

図4－(1)　設備投資の状況

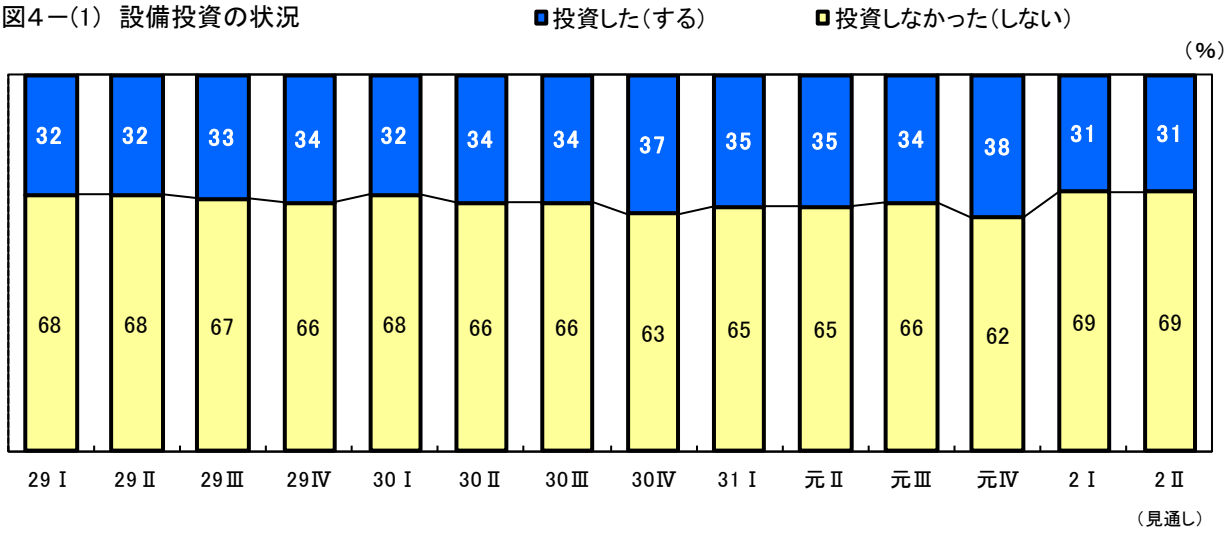


図4－(2)　設備投資の目的(複数回答)

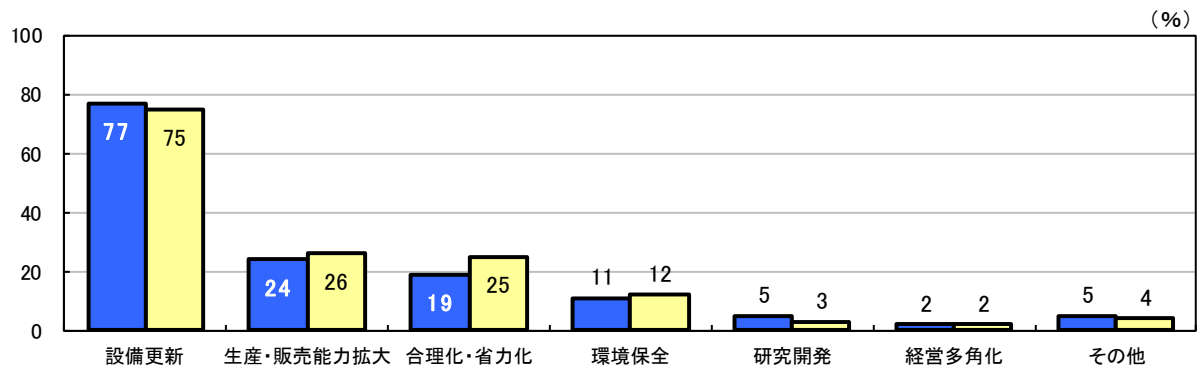


表４－(1) 設備投資の状況（R2年1-3月実績）（業種・資本金・地域別）

（%）

区分		R元年 10-12月 設備投資した	R2年 1-3月 設備投資した	設備投資の目的（複数回答） 設備更新	生産・販売能力拡大	合理化省力化	環境保全	経営多角化	研究開発	その他
総計		38	31	77	24	19	11	5	2	5
	札幌市を除く	35	28	78	23	21	13	4	1	5
	札幌市	50	44	76	25	17	7	7	3	5
業種	建設業	31	31	79	10	21	3	0	0	7
	製造業	47	40	80	35	30	9	7	4	4
	卸売･小売業	33	23	69	24	17	21	3	3	3
	運輸業	43	42	88	10	13	5	5	0	3
	サービス業	36	26	71	31	16	16	8	2	8
資本金	5千万円未満	31	24	76	25	19	11	6	0	6
	5千万以上～1億円未満	41	38	76	22	18	9	2	2	4
	1億円以上	63	57	82	22	22	12	6	6	4
地域	道南	28	19	81	25	19	13	0	0	13
	道央	45	37	80	31	18	9	6	3	4
	札幌市を除く	39	29	85	41	21	12	6	3	3
	札幌市	50	44	76	25	17	7	7	3	5
	道北	35	33	77	10	26	13	0	3	10
	オホーツク	32	21	71	14	14	21	0	0	0
	十勝	33	32	64	23	32	9	14	0	5
	釧路・根室	40	30	84	16	5	11	5	0	0

表４－(2) 設備投資の状況（R2年4-6月見通し）（業種・資本金・地域別）

（%）

区分		R2年4-6月 設備投資する	設備投資の目的（複数回答） 設備更新	生産・販売能力拡大	合理化省力化	環境保全	経営多角化	研究開発	その他
総計		31	75	26	25	12	3	2	4
	札幌市を除く	29	74	24	23	13	3	1	4
	札幌市	36	77	31	31	6	2	4	6
業種	建設業	28	85	27	19	8	0	0	0
	製造業	40	65	48	39	15	7	4	2
	卸売･小売業	27	76	21	24	15	3	0	6
	運輸業	44	85	5	7	7	2	0	5
	サービス業	23	67	26	30	12	0	5	7
資本金	5千万円未満	24	73	26	27	7	2	0	5
	5千万以上～1億円未満	39	73	29	22	16	2	2	2
	1億円以上	55	80	22	22	16	4	6	4
地域	道南	21	76	35	6	6	6	0	12
	道央	36	78	28	29	12	2	3	6
	札幌市を除く	37	78	24	27	20	2	2	5
	札幌市	36	77	31	31	6	2	4	6
	道北	35	75	13	22	19	3	3	3
	オホーツク	29	78	39	11	6	0	0	0
	十勝	28	53	26	47	11	5	0	0
	釧路・根室	23	79	14	14	7	0	0	0

５　地域別にみる各産業の動向

（１）　道南

今期の業況感ＢＳＩは △ 55　（前期から 16 ポイント下降）

主な上昇業種･･･各種商品卸売業（▲100→0）、建築材料卸売業（▲100→▲25）
主な下降業種･･･木材・木製品製造業（0→▲100）宿泊業（▲33→▲100）、通信業（0→▲100）
建物サービス業（100→▲100）

来期の業況感ＢＳＩは △ 53　（今期から 2 ポイント上昇）

図５－(1)　地域別BSIの推移【道南】

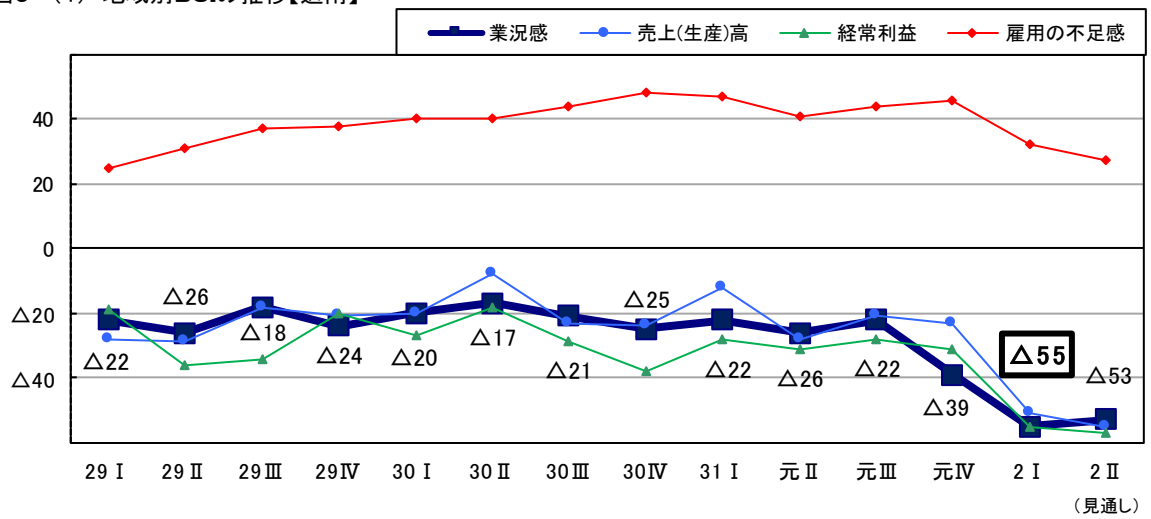


表５－(1)　地域別BSI【道南】

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 39	4	37	59	△ 55	△ 16	2	43	55	△ 53	2
	建設業	△ 25	14	57	29	△ 15	10	7	57	36	△ 29	△ 14
	製造業	△ 27	6	38	56	△ 50	△ 23	6	56	38	△ 32	18
	卸売･小売業	△ 81	0	39	61	△ 61	20	0	44	56	△ 56	5
	運輸業	△ 30	0	56	44	△ 44	△ 14	0	44	56	△ 56	△ 12
	サービス業	△ 28	0	20	80	△ 80	△ 52	0	24	76	△ 76	4
売上（生産）高	全産業	△ 23	8	33	59	△ 51	△ 28	2	41	57	△ 55	△ 4
	建設業	△ 13	14	50	36	△ 22	△ 9	7	57	36	△ 29	△ 7
	製造業	0	19	18	63	△ 44	△ 44	6	50	44	△ 38	6
	卸売･小売業	△ 50	6	38	56	△ 50	0	0	50	50	△ 50	0
	運輸業	△ 18	10	50	40	△ 30	△ 12	0	30	70	△ 70	△ 40
	サービス業	△ 28	0	20	80	△ 80	△ 52	0	24	76	△ 76	4
経常利益	全産業	△ 31	8	29	63	△ 55	△ 24	2	39	59	△ 57	△ 2
	建設業	△ 44	21	22	57	△ 36	8	7	57	36	△ 29	7
	製造業	△ 18	13	24	63	△ 50	△ 32	6	38	56	△ 50	0
	卸売･小売業	△ 38	6	38	56	△ 50	△ 12	0	50	50	△ 50	0
	運輸業	△ 27	10	50	40	△ 30	△ 3	0	40	60	△ 60	△ 30
	サービス業	△ 28	0	20	80	△ 80	△ 52	0	20	80	△ 80	0
雇用者の不足感	全産業	46	38	56	6	32	△ 14	36	55	9	27	△ 5
	建設業	88	71	29	0	71	△ 17	79	21	0	79	8
	製造業	31	25	75	0	25	△ 6	25	75	0	25	0
	卸売･小売業	32	33	67	0	33	1	28	72	0	28	△ 5
	運輸業	36	50	50	0	50	14	40	60	0	40	△ 10
	サービス業	40	26	52	22	4	△ 36	22	48	30	△ 8	△ 12

※「売上（生産）高」及び「経常利益」については、「上昇」を「増加」、「下降」を「減少」と、
「雇用者の不足感」については、「上昇」を「不足」、「横ばい」を「適正」、「下降」を「過剰」と読み替え。（以下、同じ。）

（２）　道央

今期の業況感ＢＳＩは △ 32 （前期から 23 ポイント下降）

主な上昇業種･･･塗装工事業などの職別工事業（▲50→0）電気機械器具製造業（0→50）
主な下降業種･･･パルプ・紙・紙加工品製造業（0→▲100）、飲食店（0→▲100）

来期の業況感ＢＳＩは △ 47 （今期から 15 ポイント下降）

図５－(2) 地域別BSIの推移【道央】

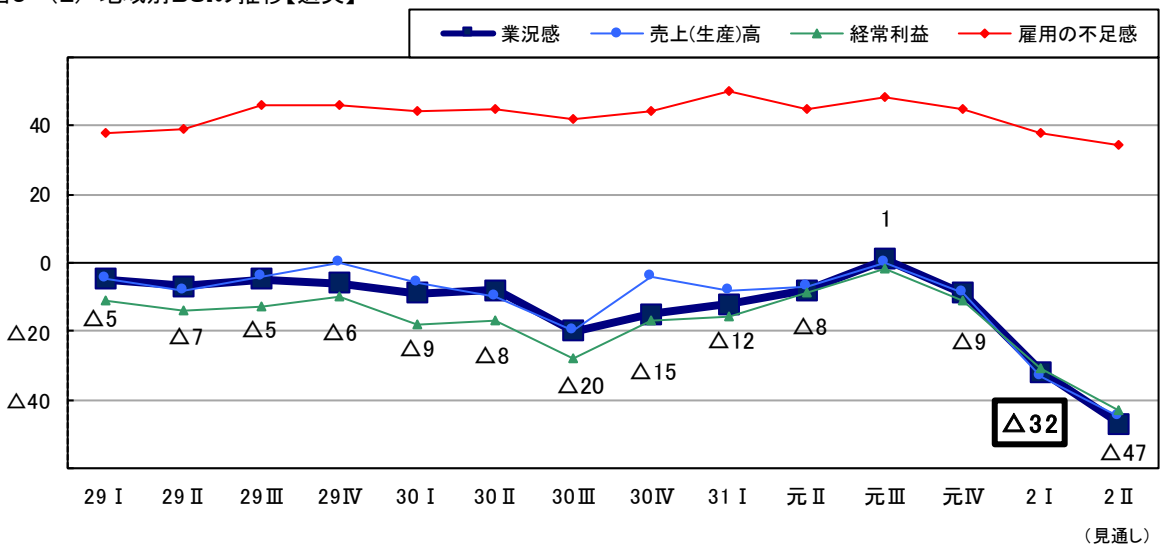


表５－(2) 地域別BSI【道央】

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 9	10	48	42	△ 32	△ 23	3	47	50	△ 47	△ 15
	建設業	△ 6	17	66	17	0	6	7	76	17	△ 10	△ 10
	製造業	△ 13	5	57	38	△ 33	△ 20	5	52	43	△ 38	△ 5
	卸売･小売業	△ 18	4	45	51	△ 47	△ 29	4	26	70	△ 66	△ 19
	運輸業	△ 3	18	37	45	△ 27	△ 24	0	45	55	△ 55	△ 28
	サービス業	△ 6	11	43	46	△ 35	△ 29	1	47	52	△ 51	△ 16
売上（生産）高	全産業	△ 9	14	39	47	△ 33	△ 24	4	47	49	△ 45	△ 12
	建設業	3	27	50	23	4	1	13	70	17	△ 4	△ 8
	製造業	△ 12	12	45	43	△ 31	△ 19	5	50	45	△ 40	△ 9
	卸売･小売業	△ 25	6	34	60	△ 54	△ 29	2	38	60	△ 58	△ 4
	運輸業	△ 4	21	31	48	△ 27	△ 23	3	42	55	△ 52	△ 25
	サービス業	△ 6	14	38	48	△ 34	△ 28	3	45	52	△ 49	△ 15
経常利益	全産業	△ 11	15	39	46	△ 31	△ 20	5	47	48	△ 43	△ 12
	建設業	△ 3	23	54	23	0	3	13	67	20	△ 7	△ 7
	製造業	△ 29	12	48	40	△ 28	1	5	55	40	△ 35	△ 7
	卸売･小売業	△ 6	8	41	51	△ 43	△ 37	8	37	55	△ 47	△ 4
	運輸業	△ 10	24	28	48	△ 24	△ 14	0	45	55	△ 55	△ 31
	サービス業	△ 9	14	34	52	△ 38	△ 29	2	45	53	△ 51	△ 13
雇用者の不足感	全産業	45	43	52	5	38	△ 7	39	56	5	34	△ 4
	建設業	72	60	40	0	60	△ 12	57	43	0	57	△ 3
	製造業	36	37	58	5	32	△ 4	37	61	2	35	3
	卸売･小売業	34	28	66	6	22	△ 12	29	61	10	19	△ 3
	運輸業	55	64	36	0	64	9	58	42	0	58	△ 6
	サービス業	41	41	50	9	32	△ 9	34	58	8	26	△ 6

（２）－ ①　道央（札幌市を除く）

今期の業況感ＢＳＩは △ 45　（前期から 23 ポイント下降）

主な上昇業種･･･塗装工事業などの職別工事業（▲50→0）、設備工事業（▲50→0）
職業紹介・労働者派遣業（▲50→0）
主な下降業種･･･飲食料品卸売業（▲25→▲100）、飲食料品小売業（25→▲67）
飲食店（▲25→▲100）、洗濯・理容・美容・浴場業（33→▲67）

来期の業況感ＢＳＩは △ 49　（今期から 4 ポイント下降）

図5－(2)－①　地域別BSIの推移【道央（札幌市を除く）】

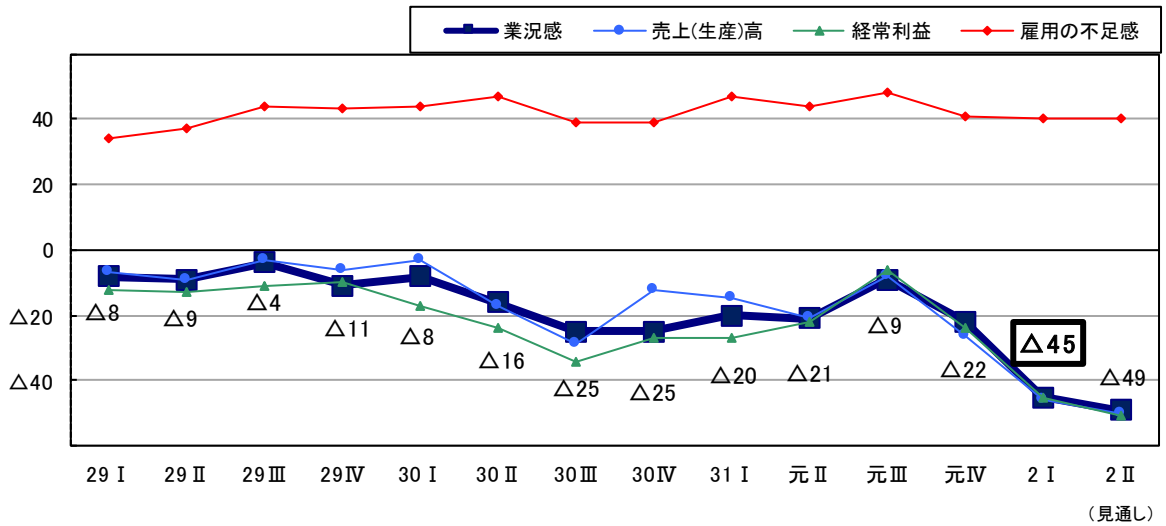


表5－(2)－①　地域別BSI【道央（札幌市を除く）】

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 22	5	45	50	△ 45	△ 23	3	45	52	△ 49	△ 4
	建設業	△ 36	7	57	36	△ 29	7	0	71	29	△ 29	0
	製造業	△ 21	0	63	37	△ 37	△ 16	4	59	37	△ 33	4
	卸売･小売業	△ 23	5	33	62	△ 57	△ 34	10	19	71	△ 61	△ 4
	運輸業	△ 18	12	41	47	△ 35	△ 17	0	59	41	△ 41	△ 6
	サービス業	△ 17	6	34	60	△ 54	△ 37	0	34	66	△ 66	△ 12
売上（生産）高	全産業	△ 26	9	36	55	△ 46	△ 20	3	44	53	△ 50	△ 4
	建設業	△ 40	21	43	36	△ 15	25	14	57	29	△ 15	0
	製造業	△ 22	7	49	44	△ 37	△ 15	4	52	44	△ 40	△ 3
	卸売･小売業	△ 39	5	27	68	△ 63	△ 24	5	31	64	△ 59	4
	運輸業	△ 6	12	35	53	△ 41	△ 35	0	53	47	△ 47	△ 6
	サービス業	△ 25	6	30	64	△ 58	△ 33	0	34	66	△ 66	△ 8
経常利益	全産業	△ 24	8	39	53	△ 45	△ 21	3	43	54	△ 51	△ 6
	建設業	△ 40	14	50	36	△ 22	18	7	57	36	△ 29	△ 7
	製造業	△ 32	7	52	41	△ 34	△ 2	4	55	41	△ 37	△ 3
	卸売･小売業	△ 8	5	36	59	△ 54	△ 46	9	27	64	△ 55	△ 1
	運輸業	△ 12	12	35	53	△ 41	△ 29	0	53	47	△ 47	△ 6
	サービス業	△ 27	6	27	67	△ 61	△ 34	0	31	69	△ 69	△ 8
雇用者の不足感	全産業	41	45	50	5	40	△ 1	44	52	4	40	0
	建設業	57	50	50	0	50	△ 7	57	43	0	57	7
	製造業	25	38	58	4	34	9	38	62	0	38	4
	卸売･小売業	38	32	63	5	27	△ 11	33	57	10	23	△ 4
	運輸業	53	65	35	0	65	12	59	41	0	59	△ 6
	サービス業	43	46	43	11	35	△ 8	41	50	9	32	△ 3

（２）－ ②　道央（札幌市）

今期の業況感ＢＳＩは　△21　（前期から 24 ポイント下降）

主な上昇業種･･･電気機械器具製造業（0→50）、各種商品小売業（▲100→▲50）
主な下降業種･･･燃料小売業等のその他の小売業（50→▲75）、飲食店（25→▲100）

来期の業況感ＢＳＩは △ 46（今期から 25 ポイント下降）

図５－(2)－②　地域別BSIの推移【道央（札幌市）】

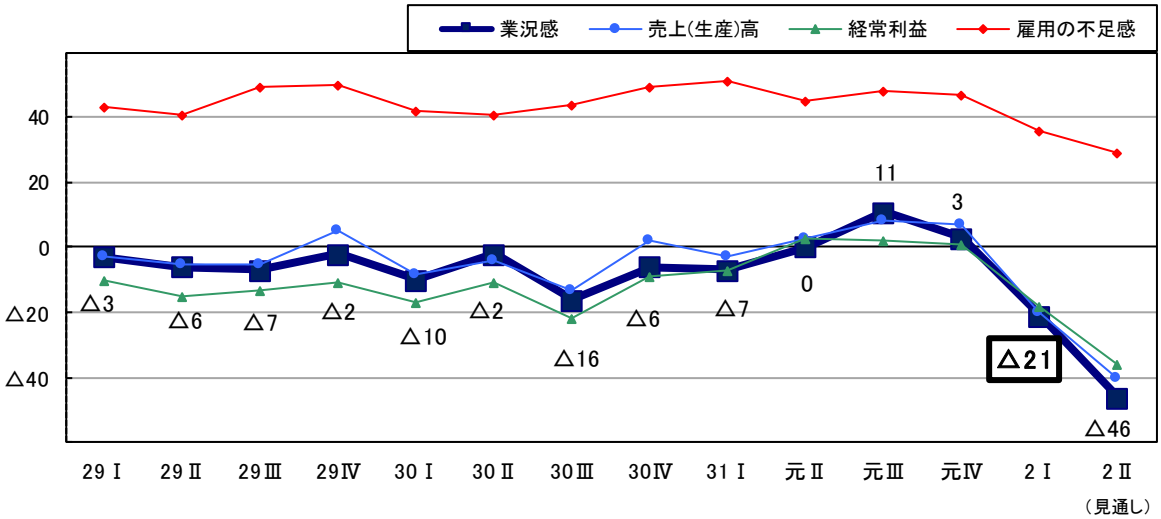


表５－(2)－②　地域別BSI【道央（札幌市）】

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	3	14	51	35	△ 21	△ 24	3	48	49	△ 46	△ 25
	建設業	16	25	75	0	25	9	13	81	6	7	△ 18
	製造業	0	13	47	40	△ 27	△ 27	7	40	53	△ 46	△ 19
	卸売･小売業	△ 12	3	53	44	△ 41	△ 29	0	31	69	△ 69	△ 28
	運輸業	15	25	31	44	△ 19	△ 34	0	31	69	△ 69	△ 50
	サービス業	2	15	49	36	△ 21	△ 23	2	54	44	△ 42	△ 21
売上（生産）高	全産業	7	20	40	40	△ 20	△ 27	5	50	45	△ 40	△ 20
	建設業	39	31	56	13	18	△ 21	13	81	6	7	△ 11
	製造業	6	20	40	40	△ 20	△ 26	7	46	47	△ 40	△ 20
	卸売･小売業	△ 12	6	39	55	△ 49	△ 37	0	42	58	△ 58	△ 9
	運輸業	0	31	25	44	△ 13	△ 13	6	31	63	△ 57	△ 44
	サービス業	8	20	42	38	△ 18	△ 26	5	51	44	△ 39	△ 21
経常利益	全産業	1	21	40	39	△ 18	△ 19	6	52	42	△ 36	△ 18
	建設業	27	31	56	13	18	△ 9	19	75	6	13	△ 5
	製造業	△ 25	20	40	40	△ 20	5	7	53	40	△ 33	△ 13
	卸売･小売業	△ 4	10	45	45	△ 35	△ 31	6	46	48	△ 42	△ 7
	運輸業	△ 7	38	18	44	△ 6	1	0	37	63	△ 63	△ 57
	サービス業	4	20	38	42	△ 22	△ 26	4	52	44	△ 40	△ 18
雇用者の不足感	全産業	47	41	54	5	36	△ 11	35	59	6	29	△ 7
	建設業	83	69	31	0	69	△ 14	56	44	0	56	△ 13
	製造業	56	33	60	7	26	△ 30	33	60	7	26	0
	卸売･小売業	31	26	68	6	20	△ 11	26	64	10	16	△ 4
	運輸業	57	63	37	0	63	6	56	44	0	56	△ 7
	サービス業	38	38	55	7	31	△ 7	29	64	7	22	△ 9

（３）　道北

今期の業況感ＢＳＩは △ 42 （前期から 24 ポイント下降）

主な上昇業種･･･家具・装備品製造業（0→100）、飲食料品卸売業（▲100→0）
一般産業用機械・装置製造業等の汎用機械（50→100）
主な下降業種･･･設備工事業（0→▲100）、その他の製造業（0→▲100）、宿泊業（▲25→▲100）
飲食料品小売業（0→▲75）

来期の業況感ＢＳＩは △ 50（今期から 8 ポイント下降）

図５－(３) 地域別BSIの推移【道北】

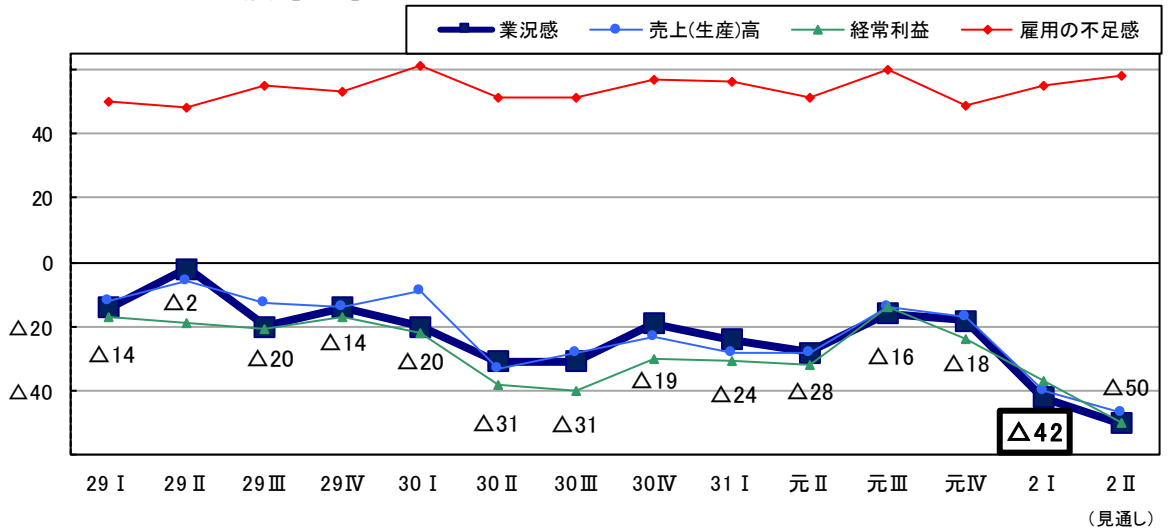


表５－(５) 地域別BSI（道北）

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 18	7	44	49	△ 42	△ 24	4	42	54	△ 50	△ 8
	建設業	17	6	75	19	△ 13	△ 30	13	49	38	△ 25	△ 12
	製造業	△ 5	15	40	45	△ 30	△ 25	5	50	45	△ 40	△ 10
	卸売･小売業	△ 50	0	31	69	△ 69	△ 19	0	44	56	△ 56	13
	運輸業	△ 50	6	25	69	△ 63	△ 13	6	19	75	△ 69	△ 6
	サービス業	△ 23	7	45	48	△ 41	△ 18	0	44	56	△ 56	△ 15
売上（生産）高	全産業	△ 17	11	38	51	△ 40	△ 23	4	45	51	△ 47	△ 7
	建設業	17	13	49	38	△ 25	△ 42	6	50	44	△ 38	△ 13
	製造業	△ 10	20	35	45	△ 25	△ 15	5	55	40	△ 35	△ 10
	卸売･小売業	△ 60	0	31	69	△ 69	△ 9	0	44	56	△ 56	13
	運輸業	△ 36	6	25	69	△ 63	△ 27	13	18	69	△ 56	7
	サービス業	△ 17	12	46	42	△ 30	△ 13	0	50	50	△ 50	△ 20
経常利益	全産業	△ 24	11	41	48	△ 37	△ 13	3	44	53	△ 50	△ 13
	建設業	0	13	49	38	△ 25	△ 25	0	44	56	△ 56	△ 31
	製造業	0	5	60	35	△ 30	△ 30	0	65	35	△ 35	△ 5
	卸売･小売業	△ 50	6	31	63	△ 57	△ 7	6	38	56	△ 50	7
	運輸業	△ 43	13	24	63	△ 50	△ 7	6	19	75	△ 69	△ 19
	サービス業	△ 39	15	39	46	△ 31	8	4	48	48	△ 44	△ 13
雇用者の不足感	全産業	49	59	37	4	55	6	59	40	1	58	3
	建設業	76	63	31	6	57	△ 19	75	25	0	75	18
	製造業	58	75	25	0	75	17	70	30	0	70	△ 5
	卸売･小売業	30	47	40	13	34	4	47	46	7	40	6
	運輸業	57	75	19	6	69	12	69	31	0	69	0
	サービス業	24	42	58	0	42	18	39	61	0	39	△ 3

（４）　オホーツク

今期の業況感ＢＳＩは △ 46（前期から 19 ポイント下降）

主な上昇業種･･･繊維工業（▲100→0）、楽器製造業等のその他の製造業（▲100→0）
物品賃貸業（▲100→0）
主な下降業種･･･生産用機械器具製造業（50→▲50）、飲食料品卸売業（67→▲67）

来期の業況感ＢＳＩは △ 51　（今期から５ポイント下降）

図５－(4)　地域別BSIの推移【オホーツク】

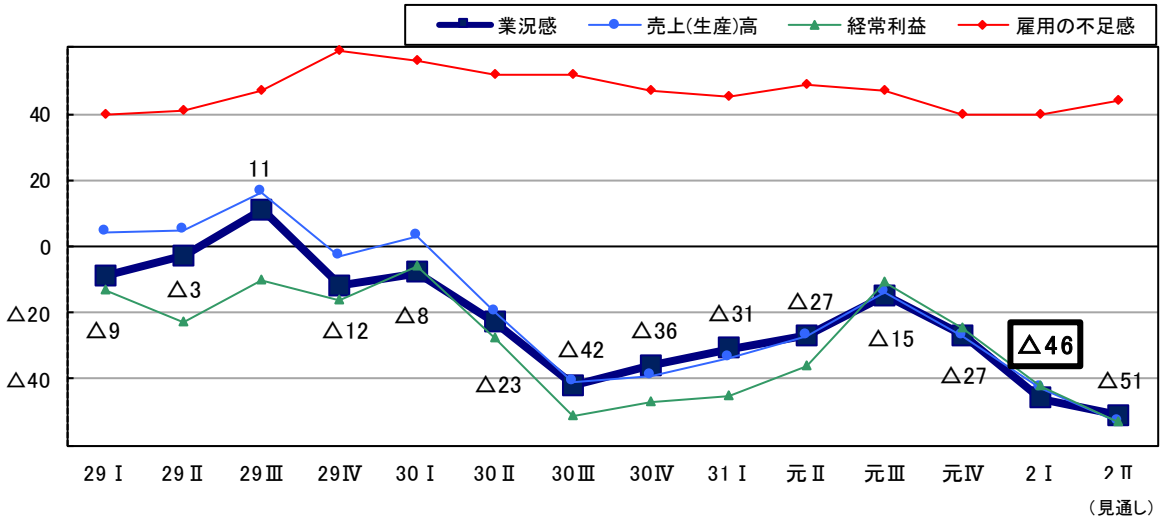


表５－(6)　地域別BSI(オホーツク)

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 27	3	48	49	△ 46	△ 19	1	47	52	△ 51	△ 5
	建設業	△ 18	0	69	31	△ 31	△ 13	0	54	46	△ 46	△ 15
	製造業	△ 20	8	67	25	△ 17	3	8	67	25	△ 17	0
	卸売･小売業	△ 25	0	38	62	△ 62	△ 37	0	31	69	△ 69	△ 7
	運輸業	△ 27	8	34	58	△ 50	△ 23	0	67	33	△ 33	17
	サービス業	△ 46	0	35	65	△ 65	△ 19	0	24	76	△ 76	△ 11
売上（生産）高	全産業	△ 27	6	45	49	△ 43	△ 16	3	41	56	△ 53	△ 10
	建設業	△ 27	15	54	31	△ 16	11	0	54	46	△ 46	△ 30
	製造業	△ 20	8	75	17	△ 9	11	8	59	33	△ 25	△ 16
	卸売･小売業	△ 23	0	38	62	△ 62	△ 39	8	15	77	△ 69	△ 7
	運輸業	△ 27	8	25	67	△ 59	△ 32	0	55	45	△ 45	14
	サービス業	△ 38	0	35	65	△ 65	△ 27	0	29	71	△ 71	△ 6
経常利益	全産業	△ 25	9	40	51	△ 42	△ 17	2	43	55	△ 53	△ 11
	建設業	△ 18	23	46	31	△ 8	10	0	46	54	△ 54	△ 46
	製造業	△ 27	17	50	33	△ 16	11	0	67	33	△ 33	△ 17
	卸売･小売業	△ 15	0	54	46	△ 46	△ 31	8	30	62	△ 54	△ 8
	運輸業	△ 27	8	34	58	△ 50	△ 23	0	55	45	△ 45	5
	サービス業	△ 38	0	24	76	△ 76	△ 38	0	29	71	△ 71	5
雇用者の不足感	全産業	40	48	44	8	40	0	50	44	6	44	4
	建設業	64	54	46	0	54	△ 10	62	38	0	62	8
	製造業	40	50	50	0	50	10	50	50	0	50	0
	卸売･小売業	38	46	39	15	31	△ 7	31	61	8	23	△ 8
	運輸業	46	64	36	0	64	18	70	30	0	70	6
	サービス業	15	35	47	18	17	2	44	37	19	25	8

（５）　十勝

今期の業況感ＢＳＩは △ 46　（前期から 21 ポイント下降）

主な上昇業種･･･設備工事業（0→100）、廃棄物処理業（▲100→0）
主な下降業種･･･倉庫業（100→0）、飲食店（0→▲100）、職業紹介・労働者派遣業（100→0）
経営コンサルタント業、純粋持株会社等の専門サービス業（0→▲100）、

来期の業況感ＢＳＩは △ 60　（今期から 14 ポイント下降）

図５－(５) 地域別BSIの推移【十勝】

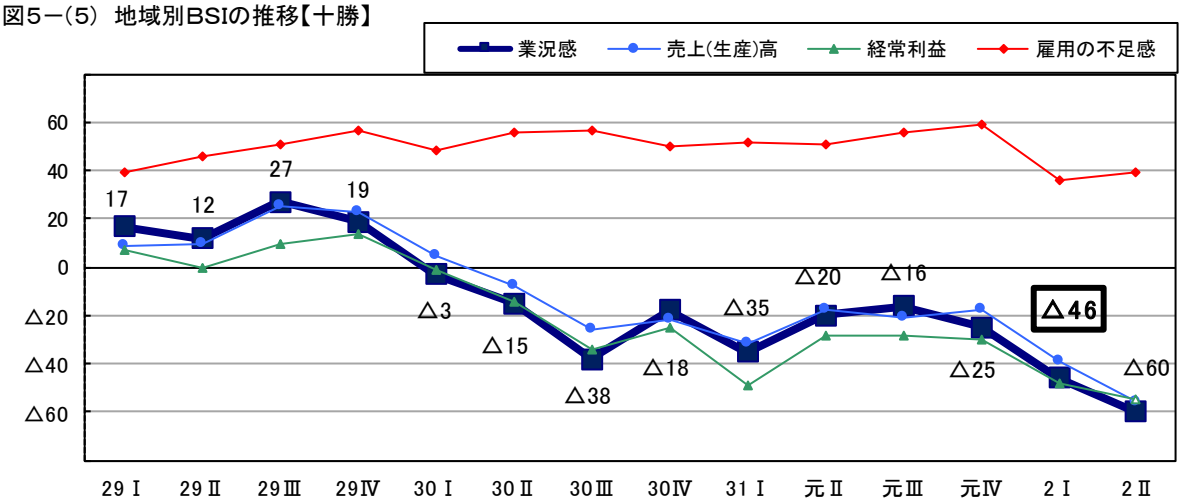


表５－(７) 地域別BSI(十勝)

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 25	7	40	53	△ 46	△ 21	0	40	60	△ 60	△ 14
	建設業	△ 9	18	55	27	△ 9	0	0	64	36	△ 36	△ 27
	製造業	0	14	43	43	△ 29	△ 29	0	31	69	△ 69	△ 40
	卸売･小売業	△ 73	0	29	71	△ 71	2	0	29	71	△ 71	0
	運輸業	△ 15	8	42	50	△ 42	△ 27	0	50	50	△ 50	△ 8
	サービス業	△ 29	0	35	65	△ 65	△ 36	0	35	65	△ 65	0
売上（生産）高	全産業	△ 18	12	37	51	△ 39	△ 21	2	40	58	△ 56	△ 17
	建設業	0	36	46	18	18	18	9	64	27	△ 18	△ 36
	製造業	0	14	43	43	△ 29	△ 29	0	31	69	△ 69	△ 40
	卸売･小売業	△ 73	0	21	79	△ 79	△ 6	0	29	71	△ 71	8
	運輸業	0	8	42	50	△ 42	△ 42	0	45	55	△ 55	△ 13
	サービス業	△ 22	6	35	59	△ 53	△ 31	0	41	59	△ 59	△ 6
経常利益	全産業	△ 30	7	38	55	△ 48	△ 18	2	41	57	△ 55	△ 7
	建設業	0	18	64	18	0	0	0	73	27	△ 27	△ 27
	製造業	△ 9	15	39	46	△ 31	△ 22	0	25	75	△ 75	△ 44
	卸売･小売業	△ 73	0	21	79	△ 79	△ 6	0	29	71	△ 71	8
	運輸業	△ 22	8	42	50	△ 42	△ 20	0	45	55	△ 55	△ 13
	サービス業	△ 43	0	29	71	△ 71	△ 28	6	41	53	△ 47	24
雇用者の不足感	全産業	59	47	42	11	36	△ 23	47	45	8	39	3
	建設業	64	60	40	0	60	△ 4	70	30	0	70	10
	製造業	36	36	64	0	36	0	23	77	0	23	△ 13
	卸売･小売業	55	36	43	21	15	△ 40	36	50	14	22	7
	運輸業	79	67	25	8	59	△ 20	64	27	9	55	△ 4
	サービス業	57	44	37	19	25	△ 32	50	37	13	37	12

（６）　釧路・根室

今期の業況感ＢＳＩは △ 42（前期から 21 ポイント下降）

主な上昇業種･･･食料品製造業（▲67→▲33）、廃棄物処理業（▲100→0）
主な下降業種･･･設備工事業（100→0）、金属製品製造業（0→▲100）、水運業（0→▲100）
飲食店（67→▲100）、職業紹介・労働者派遣業（100→▲100）

来期の業況感ＢＳＩは △ 58 （今期から 16 ポイント下降）

図５－(6) 地域別BSIの推移【釧路・根室】

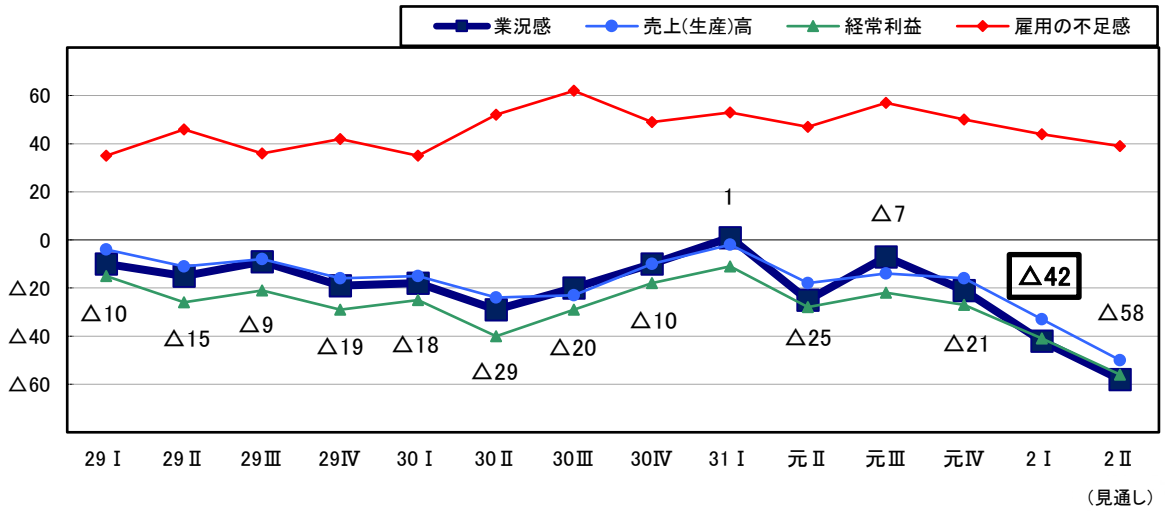


表５－(8) 地域別BSI(釧路・根室)

区　分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績					R2年4-6月見通し				
			上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
業況感	全産業	△ 21	5	48	47	△ 42	△ 21	3	36	61	△ 58	△ 16
	建設業	△ 9	9	73	18	△ 9	0	0	64	36	△ 36	△ 27
	製造業	△ 33	9	64	27	△ 18	15	0	45	55	△ 55	△ 37
	卸売･小売業	△ 27	9	36	55	△ 46	△ 19	0	9	91	△ 91	△ 45
	運輸業	△ 31	0	54	46	△ 46	△ 15	15	31	54	△ 39	7
	サービス業	△ 13	0	28	72	△ 72	△ 59	0	33	67	△ 67	5
売上（生産）高	全産業	△ 16	11	45	44	△ 33	△ 17	2	46	52	△ 50	△ 17
	建設業	0	36	55	9	27	27	0	64	36	△ 36	△ 63
	製造業	△ 22	18	46	36	△ 18	4	0	64	36	△ 36	△ 18
	卸売･小売業	△ 18	9	36	55	△ 46	△ 28	0	18	82	△ 82	△ 36
	運輸業	△ 31	0	62	38	△ 38	△ 7	15	47	38	△ 23	15
	サービス業	△ 13	0	33	67	△ 67	△ 54	0	39	61	△ 61	6
経常利益	全産業	△ 27	8	43	49	△ 41	△ 14	2	40	58	△ 56	△ 15
	建設業	△ 27	18	64	18	0	27	0	64	36	△ 36	△ 36
	製造業	△ 22	10	40	50	△ 40	△ 18	0	40	60	△ 60	△ 20
	卸売･小売業	△ 27	0	50	50	△ 50	△ 23	0	20	80	△ 80	△ 30
	運輸業	△ 38	8	46	46	△ 38	0	15	39	46	△ 31	7
	サービス業	△ 19	6	23	71	△ 65	△ 46	0	35	65	△ 65	0
雇用者の不足感	全産業	50	47	50	3	44	△ 6	44	51	5	39	△ 5
	建設業	55	36	64	0	36	△ 19	36	64	0	36	0
	製造業	56	45	55	0	45	△ 11	45	55	0	45	0
	卸売･小売業	36	50	40	10	40	4	40	50	10	30	△ 10
	運輸業	62	62	38	0	62	0	62	38	0	62	0
	サービス業	44	41	53	6	35	△ 9	35	53	12	23	△ 12

6　道内の景況感

今期の道内の景況感ＢＳＩは △ 68 （前期から 39 ポイント下降）

・業種別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大
・地域別にみると、すべての地域でマイナス幅が拡大

来期の道内の景況感ＢＳＩは △ 68 （今期から横ばい）

図6 道内の景況感

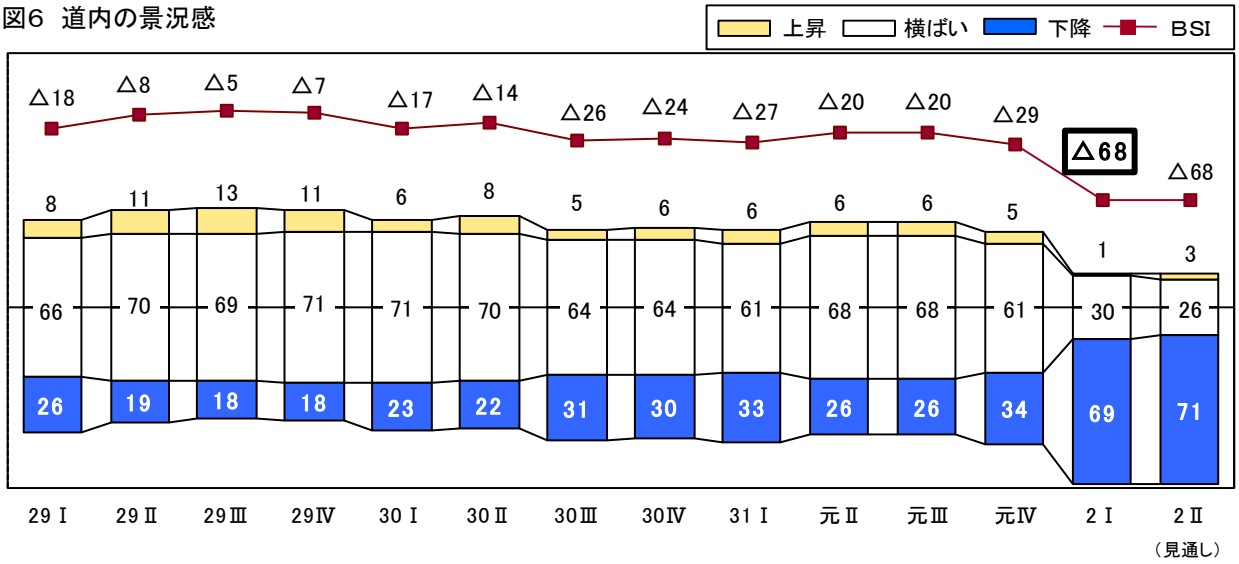


表6 道内の景況感（業種・資本金・地域別）

区 分		R元年 10-12月 実績BSI	R2年1-3月実績 上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	R2年4-6月見通し 上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総 計		△ 29	1	30	69	△ 68	△ 39	3	26	71	△ 68	0
	札幌市を除く	△ 32	1	28	71	△ 70	△ 38	2	27	71	△ 69	1
	札幌市	△ 14	2	35	63	△ 61	△ 47	5	24	71	△ 66	△ 5
業種	建設業	△ 18	0	45	55	△ 55	△ 37	4	34	62	△ 58	△ 3
	製造業	△ 25	3	29	68	△ 65	△ 40	2	31	67	△ 65	0
	卸売･小売業	△ 42	0	22	78	△ 78	△ 36	2	18	80	△ 78	0
	運輸業	△ 25	0	33	67	△ 67	△ 42	3	32	65	△ 62	5
	サービス業	△ 28	1	26	73	△ 72	△ 44	3	23	74	△ 71	1
資本金	5千万円未満	△ 30	1	27	72	△ 71	△ 41	3	25	72	△ 69	2
	5千万以上～1億円未満	△ 25	2	32	66	△ 64	△ 39	2	26	72	△ 70	△ 6
	1億円以上	△ 25	0	37	63	△ 63	△ 38	2	35	63	△ 61	2
地域	道南	△ 47	0	21	79	△ 79	△ 32	2	25	73	△ 71	8
	道央	△ 21	1	33	66	△ 65	△ 44	3	27	70	△ 67	△ 2
	札幌市を除く	△ 29	0	30	70	△ 70	△ 41	1	29	70	△ 69	1
	札幌市	△ 14	2	35	63	△ 61	△ 47	5	24	71	△ 66	△ 5
	道北	△ 24	2	27	71	△ 69	△ 45	4	26	70	△ 66	3
	オホーツク	△ 27	0	28	72	△ 72	△ 45	1	27	72	△ 71	1
	十勝	△ 34	0	31	69	△ 69	△ 35	1	33	66	△ 65	4
	釧路･根室	△ 32	2	35	63	△ 61	△ 29	0	26	74	△ 74	△ 13

7　業種・圏域別企業経営者の声（令和2年1-3月）

【建設業】

道 南	・働き方改革が経営状況を厳しくしている。人材不足が足かせとなっている。新型コロナウイルスが長引けば経済状況が厳しくなる。一日も早い回復を祈る。（土木工事業） ・ＩＣＴ施工に関して出遅れ感がある。新しい部署を立ち上げて対処を検討していきたいと考えています。今回の新型コロナウイルス感染症問題で社会全般に閉塞感が漂っている。これを打開するためにも行政には、正確な情報公開と、今後の展望を早期に打ち上げてほしい。（一般土木建築工事業） ・新型コロナウイルスの先行き状況が不透明の中、今後の業務にどの程度の支障がでるのかが見えず、その支障によってどの程度の売上損失等が発生するのかが不安である。（土木工事業（舗装工事業を除く）） ・マスク不足、消毒薬の不足、中国からの材料輸入ルートを確保できるかどうかが不安であり、この不安の解消に取り組んでほしい。熱が出ても見てくれる病院がない。（一般土木建築工事業） ・社員及び作業員の不足と高齢化が課題。行政には新型コロナウイルスの拡散防止と予防薬の開発に取り組んでほしい。（総合建設業） ・働き方改革で残業時間の減少を各工事事務所に通達しています。書類の作成、出来型図の作成等で残業時間が長くなる場合は、本社に定年延長制度で待機している経験ある技術職員を手伝わせる方向で部署を立ち上げた。（土木工事業（舗装工事業を除く））
道 央	・新型コロナウイルス感染による材料、製品調達の困難による個人、零細企業の倒産、廃業が全国的に今後増えるのではないかと囁かれています。感染予防の対策も大事ですが、経済のバランスが急激に下降することは今後の北海道に長期のダメージを残しかねないと懸念しています。収束後に希望を持てる施策を期待しますし、早めのアナウンスをお願いします。例えば観光業の早期の支援による他地域からの人の勧誘を刺激するような施策が北海道の産業全般に有益に働くのではないかと考えます。（建築工事業） ・新型コロナウイルスの終息時期が何時か。感染拡大による日本経済への影響が計り知れない。働き方改革よりは、経済活動の促進をお願いしたい。（建築工事業（木造建築工事業を除く）） ・長期視点に立った前向きな施策、特に人口減少対策や食料自給率対策を期待する。（建築工事業（木造建築工事業を除く）） ・新型コロナウイルスの影響は、今後、建設業界においても大きくなると思われる。昨年 10 月からの消費税増税の影響も出ている矢先の自粛ムードは、消費者のマインドを更に停滞させることは間違いない。したがって、公共事業の予算措置は当然のこと、新築住宅の取得ムードを高める施策などを大々的に実行していただきたい。（建築工事業（木造建築工事業を除く）） ・建設業の人手不足は深刻なので、就活希望の学生に対する支援を期待する。（一般土木建築工事業） ・東京、大阪、兵庫などでは感染者が更に増加すると思われる。例えば本州から北海道への人の出入りなどについて具体的な取組みを行ってほしい。１年後にオリンピック・パラリンピックが盛大に開催される事を願います。（舗装工事業）
道 北	・講習や会議等で人がたくさん集まることの中止が決まり安心していますが、発注が入った時に資材等が順調に入ってくるのか心配しています。（一般土木建築工事業） ・建設業は元請の都合で売上調整され、首を締めつけられている状態。卸売･小売業はコロナショックで需要減が既にあり、打つ手なし。（電気通信・信号装置工事業、卸売業） ・若い技術者の不足を解決出来ないため、将来の工事施工能力の低下が心配。ＩＣＴなどの活用はコスト削減には必ずしも結び付かないような感じがする。（土木工事業（舗装工事業を除く）） ・旭川の経営者が感染して店舗名を具体的に公表して賞賛を浴びていることを踏まえて、感染者情報をもっと詳しく報告すべきである。予防への緊張感が変化して拡大防止に役に立つと思う。（建築工事業（木造建築工事業を除く）） ・人材の確保及び育成を重視した施策を実施することを期待。（土木工事業（舗装工事業を除く）） ・現場従業員の罹患対応（応援体制等）や現場工事の進捗遅延への対応が課題。（土木工事業）

オホーツク	・人口が限られている地域での売上の減少は避けられない。内容を良くして利益率を上げたいが、高いと感じるものは買ってもらえない。社員の有給休暇、残業、労働時間に関する改善を進めるには、今まで１人でこなしていた仕事量を複数人でこなしていくしか方法がない。人口減少に伴い企業は減り、田舎は過疎化に拍車がかかる一方で、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス問題が出てきた。相当数の中小企業が廃業に追い込まれるのは必至だと思う。（建築工事業）
十 勝	・新型コロナウイルス長期化による景気の不安定化を懸念している。 （土木工事業（舗装工事業を除く））
釧路・根室	・北海道全体としての経済活動の減退や人口減少に対する施策を期待する。（土木工事業）

【製造業】

道 南	・水産物の受注など売上の減少が顕著。いつ経済活動が元に戻るのか不安ばかり。資金繰りも悪化しており、金融機関の更なる応援がなければ事業運営ができない。（塩干・塩蔵品製造業） ・下請け業者や仕入れ業者の高齢化に伴う事業縮小や解散について、社員不足の中、なんとか自社で賄うべく社員に負担をかけている面が多数あり、コスト同様大きな課題となっている。（船舶製造・修理業，舶用機関製造業） ・原料高による経営圧迫の緩和策を実施してほしい。イカ等の輸入枠については直接必要なところに配分してほしい。（水産食料品製造業）
道 央	・人手不足と新型コロナウイルスの影響による売上低下が直面する課題。人手の確保と育成に取り組んでいる。（農業用機械製造業（農業用器具を除く）） ・先行き不透明感があり不安である。（自動車・同附属品製造業） ・新型コロナウイルス対応について、どのような状況になったら平常状態に戻してよいのかの基準があると良い。現状では感染拡大防止策を定常的に継続することになり、以前の状況に戻れるという感覚がない。（調味料製造業） ・先々の課題は、従業員の高齢化が進む一方、若年層の補充が思う様に進んでおらず、生産能力が低下していく恐れがあること。縫製業は一般に他業種と比べ、特に給与面で劣っているので、募集してもなかなか集まり難い。人員確保が、中長期的には事業継続の鍵となってくる（外衣・シャツ製造業（和式を除く）） ・新型コロナウイルス終息が第一ですが、労働者の確保・育成が課題かと思います。（飼料製造業） ・４月から中国向け物件が新型コロナウイルスの影響で、製造から出荷までの時期が大幅に遅れ、予定生産量に届かなくなる。そのため、長引くとその分生産･販売が遅れ、収益に影響する。（製鋼を行わない鋼材製造業（表面処理鋼材を除く）） ・従業員の休暇に伴う給与補償や借入の優遇処置や、先行助成金などの処置が当面の課題。また、毎月の設備資金返済金の延滞処置も必要になっている。（金属用金型・同部分品・附属品製造業） ・新型コロナウイルスの早期終息と中国経済の立直りに期待している。従業員への感染対策に取り組んでいる。（電子部品製造業） ・新型コロナウイルス感染拡大防止で工場見学を２月 22 日から無期限停止としています。ウイスキー原酒は計画通り製造していますが、見学中止に伴い、売店、レストラン、有料試飲と全て営業中止でいつ再開できるかが心配です。（酒類製造業） ・学校が再開しなければ学校給食の材料を納品することが出来ず、売上が無くなる。（野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業（野菜漬物を除く））
道 北	・先が見えないので不安である。（家具製造業）
十 勝	・行政に望むのは、国民の「食べる」ということに対する価値を上げること。日本の食は全てが安すぎる。その結果、それに携わる人の賃金も安い。食品業界（小売・飲食）の裾野の広さと、「食べなければ生きられない」という本質を考えれば、金融やＩＴよりも、ここを刺激するのが一番効果的だと思う。（水産食料品製造業）

十 勝	・後継者問題に直面しております。先の見通しが立たないので設備投資などをためらいます。（紙器製造業） ・慢性的な現場作業員の不足を少しでも緩和するため、当社としては職人の現場作業時間を軽減できる商品開発に努めているところです。（建設用・建築用金属製品製造業（製缶板金業を含む）） ・下請法の強化を期待している。大企業の経営悪化は中小企業へのコストダウンにつながる。（その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業）
釧路・根室	・新型コロナウイルスの影響は、道内産業界にとって計り知れない影響と思います。リーマン・ショックの比ではないような気がします。（製材業、木製品製造業）

【卸売・小売業】

道 南	・道南における、来期以降の漁獲予想を知りたい。道南地区への対策を期待する。（塩元売業一般食料品卸売業） ・新型コロナウイルス封じ込めに向けた外出自粛等は理解できるが、長期化した場合、感染による被害よりも経済的ダメージが壊滅的となることを懸念しています。柔軟かつバランス感ある対策を期待します。（自動車（新車）小売業） ・いろいろ問題が起こるのが常で、ひるまず立ち向かうことが大切。今まで来てくれているお客様に感謝の念が強くなった。道には良い方に進むムードメーカになってほしい。（婦人・子供服小売業） ・北海道知事のリーダーシップに期待。早期収束が第一。痛みを伴うが、早い決断が良い結果に繋がることと思います。（その他の織物・衣服・身の回り品小売業） ・小売業としてお客様の集客ができず、大変厳しい状況です。（機械器具（自動車部品・付属品）小売業） ・直近の売上回復に努めたいが、現下の環境ではなかなか難しい。とにかく行政には、新型コロナウイルスの感染拡大を止めることに努めてもらいたい。（菓子・パン小売業） ・先行きの見通しが立たない。（各種食料品小売業）
道 央	・コロナ関連商品の仕入れ遅延への対処が課題。（建築材料卸売業） ・売上が減少している。先行きが分からない。（婦人・子供服小売業） ・新型コロナウイルスに対応できる薬の早期開発を期待する。（紳士衣料販売（小売）） ・従業員にマスクと消毒液等を支給し、感染防止を徹底している。体調不調の時は休暇を取るよう指示をした。国や道においては、出来るだけ早く正確な感染経路を知らせて欲しい。（衣服卸売業） ・地域に偏らない公共事業の迅速な発注を望む。（建築材料卸売業） ・コロナウイルスの早期終息を希望しています。経済がより活性化するような施策を国には期待しています。（スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器小売業） ・政治の信頼がなくなってしまい、不安が国中を覆っていることが第一の懸念です。（婦人・日用雑貨小売業、紳士服洋品） ・後継者問題が課題となっている。道内企業の縮小を懸念している。地元企業を相互に活用し合うことに取り組みたい。（機械器具小売業（自動車，自転車を除く）） ・飲食店向け厨房機器を販売･メンテナンスを行う業であるが、飲食店の売上減少傾向のため厨房入替提案をしても、前向きな交渉とはならない。収束時期が不透明なことに苦慮している。道は国とのコンタクトを更に密にして強力な支援をしていただきたい。（電気機械器具卸売業） ・新型コロナウイルスへの対応が課題。（各種食料品小売業） ・取引先や顧客の不安感の増大に対して、一企業では対応できない状況にある。収束までの時間が見えないことに困難を感じている。短期間での収束を目指す姿勢を打ち出してほしい。（一般機械器具卸売業） ・新型コロナウイルスの影響は、売上１～２割減というレベルではなく、６～７割減という食品関係の取引先も出ている。事態の収束に向けた動きが遅れると壊滅状態になる。（生鮮魚介卸売業） ・新型コロナウイスルの終息が見通せない中で、四半期毎に業績をチェックして先手で対策を打ちたい。（化学製品卸売業（塗料卸売業））

道 北	・仕事量の確保と後継者の確保が課題。（自動車小売業） ・新型コロナウイルスに感染すると隔離されるため、小企業の経営存続は難しい。（食肉卸売業） ・自社だけでも売上が上がるよう仕組みなど考えても無駄である。どんなことをしても生き延びたいが、出来ることはほとんどない。（家具・建具・畳小売業） ・予防ワクチンの早期開発に尽きる。（新聞・酒・たばこ・雑貨小売業）
オホーツク	・従業員高齢化と定年退職における次世代への引継ぎが直面している課題。国産大豆卸売り手数料の引き下げによる利益の減少を懸念している。扱う不動産の拡大に取り組みたい。新型コロナウイルスの早期終息を期待している。（農畜産物・水産物卸売業、不動産賃貸業） ・早く収束して経済が普通に戻ってほしいです。そのためには、一時的な我慢はしなければいけないと思います。「２枚のマスク」より本当に緊急を要する対策をお願いします。（野菜・青果卸売業） ・公共事業に依存している部分が多く今回の新型コロナウイルスの影響は今のところ少ないが、資材は中国製品が多いため繁盛期には不足が懸念される。ある程度先を見据えた発注が必要になると思う。（建設資材卸売業） ・先が見えないことが一番の不安。一次産業向けの補助金等が減額又は無くなるのではと心配している。（産業機械器具卸売業） ・新型コロナウイルスによる営業の自粛、インバウンドの減少の中、直接の影響はないが取引先業務店･ホテルなどに影響が拡大し、そのあおりがボディーブローのように効いてきている。新型コロナウイルスの早めの終息、ワクチンを早急に開発するなどの対策を期待する。また、北海道における緊急事態宣言は功を奏したと思うが、経済の停滞が全国に比べると早く、今後この経済停滞を首都圏よりいかに早く改善できるかが課題であり望むところです。（農畜産物・水産物卸売業） ・売上減に直面しており、更に売上減となる懸念がある。融資による支援を望む。（中古自動車小売業）
十 勝	・来店客減少による売上の低下が直面する課題。新型コロナウイルスの長期化と、終息後の低迷が長引くことを懸念している。インターネット活用（YouTube、FB、インスタ等からの発信）による販売促進に取り組んでいる。コロナウイルスをシャットアウトし、国民へ安心感を与えないと経済の復活はないと思う。安心して病院へ行けるような医療体制にしていただきたい。（自動車小売業） ・農産物加工品需要の低迷が続いていることを一番気にしている。業界としては、新幹線より貨物輸送の安定と輸送コストの減が最大の希望である。（農畜産物・水産物卸売業） ・商店街の店主が高齢化で体力的に無理ができない上、後継者がいないことが課題。（ドラッグストア）
釧路・根室	・新型コロナウイルスの早期終息を望む。（自動車小売業、自動車整備業） ・すぐに収束してくれたら立ち直れるが、あと２か月が限界である。北海道は観光、飲食、インバウンドの占める割合が大きいので連鎖倒産が心配。去年の数字とは比較できないくらい影響は大きい。（衣服卸売業） ・高齢化と人口減少が課題。お客さんが来ない。（各種食料品小売業） ・車輌の仕入れに影響が出ており、販売計画への影響も懸念している。行政は地域格差についての正しい経済状況も発信してほしい。（自動車（新車）小売業）

【運輸業】

道 南	・売上の減少で経営は悪化しており、収束時期の見通しがつかない現状をどう乗り切ることが出来るかが当面の課題。（一般乗用旅客自動車運送業） ・まずは新型コロナウイルスの早期終息を願っています。長引いた場合、経営状況にどれほどの影響が出るか、今はまだ予想すら出来ません。（倉庫業） ・新型コロナウイルスの早期終息と適切なる経営支援をお願いしたい。（一般貨物自動車運送業）

道 央	・新型コロナウイルスの影響で燃料価格がいくらか下がっているが、終息後もまだ下がることを望んでいる。（一般貨物自動車運送業） ・外出の自粛がこれからどれくらいで回復していくか心配。（一般乗用旅客自動車運送業） ・新型コロナウイルスについては、終息後の気のゆるみで２次的爆発に至らないように願います。（一般貨物自動車運送業） ・道内は緊急事態宣言が３月 19 日で解除されてはいるものの、ほぼ毎日感染者が発生しており楽観論と悲観論が交錯している。この際、混乱に拍車をかけることのないよう、それぞれの業態の使命や重要性について説くとともに、個人の義務と責任を明確に打ち出し、安心してそれぞれの業務を遂行してもらうことが肝要です。（一般貨物自動車運送業） ・残業時間規制への対応や耐震改修工事の準備に取り組んでいる。また、耐震改修工事に係る補助金支給条件の緩和を望む。（倉庫業） ・スピード感を持った明確で正確な情報発信の提供を望む。（一般貸切旅客自動車運送業） ・多種多様の業態から商品を輸送している会社のため、景気に大きく左右されるのが常に課題となっている。行政は、活気ある社会に向かう施策を打ち出してほしい。（一般貨物自動車運送業） ・一時的な需要増による好成績よりも、中長期的に安定した経営の仕組みの策定に取り組みたい。（倉庫業、湾港荷役機械の経営管理） ・新型コロナウイルスを１日でも早く終息させるようお願いしたい。状況によっては、ロックアウトができて罰則を科すことができる等、法改正も必要と感じております。（倉庫業、運送業） ・一日でも早く平常な日常を得られるよう、官民ともに頑張りましょう。道の素早い対応に感謝します。（倉庫業（冷蔵倉庫業を除く））|
道 北	・乗務員の拘束時間の制限が厳しくなるので、今までと同じ仕事をこなすには増員が必要。また、拘束時間の減少から、既存の乗務員の給料が低下するので、今までと同じ給料を支払うには利益が圧迫される。この状況を改善するためには荷主への運賃値上げ要請しかないが、荷主も体力が無い。（一般貨物自動車運送業） ・コロナウイルスがいつまで続くのかが分からず先が読めない。（道路旅客運送業） ・コロナウイルスの影響で荷物が減ってくると経営が成り立たなくなる。（一般貨物自動車運送業） ・新型コロナウイルス対応が課題。出口がない状況が続くと経営が成り立たない。売上減少による経営状況は悪化している。マスク配布と消毒を実施しているが、在庫がもう少しで底をつく。新型コロナウイルスの解決、公共交通運行事業者へのマスクと消毒液の優先的な供給をお願いしたい。（一般乗合旅客自動車運送事業） ・乗務員不足が課題。新型コロナウイルスによる外出自粛や、訪日外国人の減少による貸切バスや都市間バスの利用減を懸念。（一般乗合旅客自動車運送事業） ・軽油の単価ダウンは有難いが、新型コロナウイルスによる収入減がこの先見当がつかない。（一般貨物自動車運送業）|
オホーツク	・2021 年度より中小企業にも適用になる同一賃金同一労働に対応するための増支出が莫大であり、顧客への料金改定がうまくいかなければ事業継続の危機となる懸念がある。労働者側から見る法改正の説明のみではなく、経営者側から見る法改正対応について明確にしてほしい。適法な賃金格差の明確な説明、企業が増支出に対応する方法（顧客料金改定等）のパンフレット化、顧客対応時に説明しやすくなるものなどの情報提供を望む。（一般貨物自動車運送業） ・人手不足が課題。（一般乗用旅客自動車運送業） ・物流に対する助成施策を期待している。（一般貨物自動車運送業） ・人口減少による売上減が止まらない中、新型コロナウイルスにより市民の外出自粛による売上減の二重苦に直面している。（一般乗用旅客自動車運送業） ・新型コロナウイルスが一日も早く終息する様お願いします。（一般貸切旅客自動車運送業）|
十 勝	・新型コロナウイルス感染症の影響により中小企業、小規模事業者の経営に支障が生じる可能性を踏まえ、緊急な財政支援対策が必要。消費税 10%への引き上げ後に景気が悪化した状況から、地域経済と中小業者の危機打開へ、自治体が従来の枠を越えた緊急対策を打ち出すべき。（一般貨物自動車運送業）|

十 勝	・この２か月くらいで燃油価格が大幅に下がりほっとしているが、この反動が少々怖い。（一般貨物自動車運送業） ・道には感染症についての正確な情報の発信を期待している。特に、振興局ごとの検査数（依頼と実施）、陽性者数、回復者数の数字を示して欲しい。社員やお客様の命を守るため是非お願いしたい。（乗合・貸切旅客自動車運送事業） ・自粛による売上減少が課題。景気対策を期待する。（一般乗用旅客自動車運送業） ・元請けの手当や金額が上がっているのはわかるが、それが一次下請け、二次下請けに還元されていません。現場が週給二日制度になっても下請けへの補償制度や割増料金等が無ければただの収入減にしか感じず、下請け社員は賃金アップと土曜日の補てんを考えなければ従業員数の減少を食い止めきれず、相乗効果でどんどん経営が苦しくなってきています。（一般貨物自動車運送業、土木工事業（舗装工事業を除く）） ・人口が流出しており、札幌集中を解消してほしい。（一般貨物自動車運送業） ・人手不足とコロナウイルスの影響が課題であり、先行きも懸念している。（一般貨物自動車運送業） ・基幹産業である漁業が不振であり、人口減少等の地域経済に与える影響が大きくなっている。人手不足による事業継続の先行きに不安を感じている。（一般乗用旅客自動車運送業） ・恒久的な人員不足は変わっていません。会社や従業員の高年齢化のため、各セクションへの人員配置等、懸念材料に事欠かない状態。各問題に取り組みたいが、どのようにしていけばいいのか正直分かりかねている状況です。（一般貨物自動車運送業）
釧路・根室	

【サービス業】

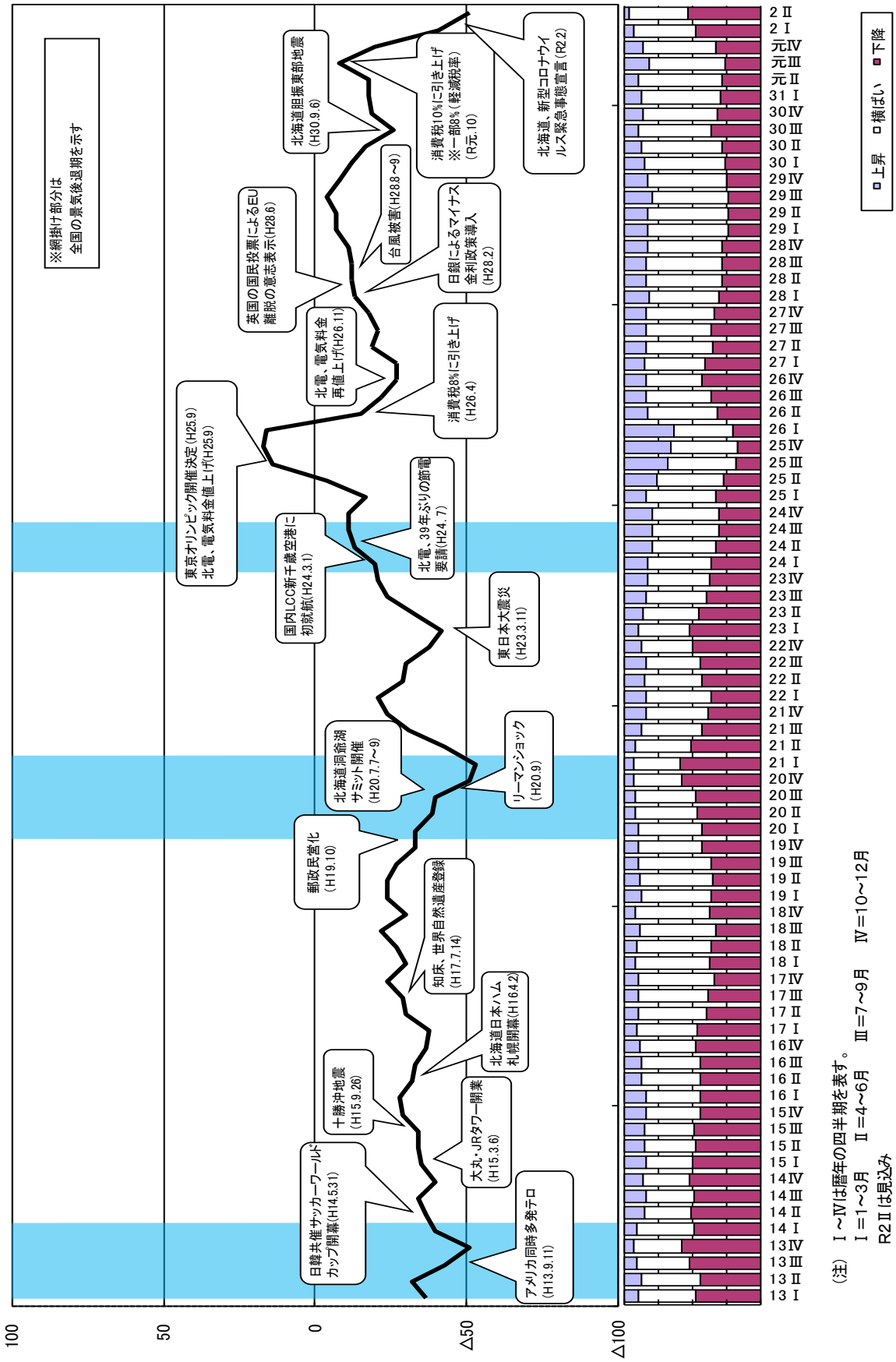
道 南	・函館市は観光の町なので人々が戻って来ることが望ましいが、新型コロナウイルスのことがあるので恐怖でもあります。（労働者派遣業） ・一日でも早い事態の収束を願います。（すし店） ・転勤族の異動の減少、拠点の減少があり、今後は地元住民へのアプローチに重点を置き、販促等の変更等を考慮中です。（電気通信に附帯するサービス業） ・もう倒産しそうです。（自動車整備業） ・当面は事業継承と若手技術者の確保が急務となっております。（測量業） ・売上減少に直面している。（旅館，ホテル） ・新型コロナウイルスの迅速で正確な情報開示と、田舎でも即時のＰＣＲ検査体制の充実と重症化を防ぐ万全な医療体制の構築が望まれる。マスクやアルコール消毒液の流通確保と高額販売者や買い占め業者の処罰強化をお願いする。（自動車整備業） ・事業活動が縮小している中で、国もいろいろな助成金制度を作って下さるにしても、分かりやすく使い勝手の良い制度であってほしい。実際に使えない制度が過去にはありました。（旅館，ホテル） ・新型コロナウイルスの早期終息を望む。（タワー搭乗、土産品等小売業） ・売上減少による資金繰りが当面の課題。感染対策のマスク･消毒液がなく不安。（旅館，ホテル） ・人口減少と後継者不在･高齢化が課題。（自動車整備業）
道 央	・私どもは市場の近くの会社です。本当に市場の周りで人が少なくなり、早く普通の生活が来るように私どもも協力していきます。（建物サービス業） ・人員確保、イベント減少による収入減、マスクなどの購入先の確保が課題。テレワークを進めたいが、ＰＣなど対応機種も品薄であり、結局できないでいる。助成金の申請手続きの簡略化を望む。（警備業） ・感染性廃棄物を扱う業者にアルコール消毒液やマスクを優先的に配付してほしい。（産業廃棄物処理業） ・人員補充（応募・採用）が当面の課題。（労働者派遣業） ・先行きが心配です。（酒場，ビヤホール）

道 央	・新型コロナウイルスの影響が計り知れない。マスクも消毒用アルコールもなく対応の仕様がない。（専門料理店） ・外出自粛要請による売上減少対策が課題。今回のことはホテル業には死活問題です。（旅館，ホテル） ・コロナの早期終息を望みます。（その他の洗濯・理容・美容・浴場業） ・新型コロナウイルスの終息と、その後の景気回復を期待します。（自動車整備業） ・当社は「登録支援機関」として「特定技能」人材を多数受注しておりますが、新型コロナウイルスの影響で各国がロックダウン状態で海外の人材がいつ出国できるかもわからない状況です。北海道における新型コロナウイルスの感染が少しでも早く終息することを願っております。（労働者派遣業） ・新型コロナウイルス対策は、国として、医療、病院、ベッド数など徹底的に早め早めの対応をしてほしいと思います。（情報処理サービス業） ・気候がよくなる季節以降の消費拡大を訴求する取組が今後の課題。具体的にはゴールデンウイーク以降、観光産業が持ち直せるかどうかがとても心配。消費税のポイント還元も６月で終了し、７月以降、消費税 10%がひしひしと生活に響いてくる。今後、世界的な収束宣言はまだまだ先が見えない。日本が収束できたとしても、すぐに訪日客が増えるとも思えない。つくづく今回の件で、日本の経済や生活そのものが中国という大国に頼っていたということを実感しました。原点回帰ではありませんが、日本の『カルチャー力』を高める良いチャンスと捉えて、もっともっと自分達の住む地域の未来を見据えて大切に迅速に対応して行かなければならないと思います。（旅館，ホテル） ・ＡＩとの競争を懸念している。ＡＩ関係の情報収集に努めている。（土木設計業） ・顧客に良さを伝えるために、ホームページのリニューアルやカタログ作成に重点を置くことから、中小企業支援助成金に応募しようと思っている。（建築設計業） ・税金の負担が大きい。（美容業） ・売上減少分の補填等が必要な企業に適切に支援する等、経営難で、倒産の可能性の高いところへの救済措置を早急に行えるよう対策していただけると有難い。（カラオケボックス業） ・お客がゼロでは無いが、損益分岐点をさまよっている。社員たちの給料もどこまで出せるか我慢のしどころ。予約の宣伝等、お店の宣伝をいつ再開させるか思案している。行政には新型コロナウイルスに感染しても大丈夫な体制構築（薬と医療の充実）と、経済活動の活性化と経済活動の再開を積極的に告知していただきたい。（スポーツ施設提供業） ・事業破綻の恐れに直面している。（旅館，ホテル） ・新型コロナウイルスの終息に限ります。インバウンド需要対策をするにもタイミングがはっきり見えてきていない。（旅行業） ・当社は飲食業のため、新型コロナウイルスによる影響を直接受けてしまった感じがある。商業施設内の店舗は、売上前年対比で 50～60%の状態であるが、郊外店は徐々に回復してきている。４月中旬からは、チラシ等の販促で郊外店の売上を伸ばしていくつもりである。首都圏からの人の移動、首都圏発の自粛ムード等、いろいろな意味で北海道に影響が出ないように願っている。（配達飲食サービス業、専門料理店） ・人手不足が続いていたので積極的に採用活動を続けているが、新型コロナウイルスの影響で民間企業の設備投資が急激に減少傾向になった場合、現状の体制では過剰人員が発生する懸念があります。そのため、適正な人員配置等を行うには事業拠点の集約、流通網の整備等を検討する必要があると思っております。今回の新型コロナウイルス対策にも表れていますが、国に依存するのではなく、北海道の現状に合わせた施策を打ち出していただけることを今後も期待しています。（産業用機械器具賃貸業） ・会社ビル内における新型コロナウイルス感染者の発生を懸念している。（他に分類されない事業サービス業） ・集客減少と余剰人材の扱いが当面の課題。インバウンドが回復するかどうかの懸念がある。復興支援のための補助金の設定をお願いしたい。（旅館，ホテル） ・新事業の発掘が喫緊の課題。経常利益減少に伴う人件費の負担が大きくなっている。（広告業） ・道内以外の地域と終息を同時期に共有できることが一番の需要喚起。（旅行業） ・道内景気が非常に落ち込むことが見込まれるため、国と連携して様々な企業支援をお願いしたい。（産業用機械器具賃貸業）

道 北	・先行き不透明な中で、来期の見通しも立ちません。（美容業） ・地方の人口減少が課題であり、先行きも懸念している。（普通洗濯業） ・新型コロナウイルス感染症や韓国への輸出規制強化に伴うインバウンドの低迷により回復時期が見えない。人手不足も課題。安全安心を基本に新しいマーケットの創出に取り組みたい。プレミアム付旅行券などによる観光業支援を期待している。（旅館，ホテル） ・とにかく新型コロナウイルスの影響が甚大なため、会社が今後どのように推移していくか全く予想がつきません。地域経済も含め、相当な影響が出ると思います。（旅館，ホテル） ・益々顕著に進む人口減少と少子高齢化の中にあって、道内における地方創生には違和感があります。札幌集中、過疎地拡大を前提に将来の北海道像を斬新に描く必要があるように思います。道内交通網もそれを前提にできないため、無駄な経費をかけ続けている。（情報処理・提供サービス業） ・宿泊業に関しては、今後コロナウイルス感染症の影響がどのくらい続くか分からないので、対策が難しい。とにかく早く終息させて、スポーツイベント再開、旅行客が安心して楽しめる環境を取り戻してほしい。長期化する場合は、思い切った資金面での支援策を出していただきたい。（旅館，ホテル）
オホーツク	・旅行業は利益の少ない商売なので、低利融資を受けると逆に倒産をしてしまう恐れがある。今は一人経営なので、給与を未払にして凌いでいくしかないと思っている。（旅行業） ・３～５月の売上があるのか不安。経済活動が回復しなければ先行きが心配。（旅館，ホテル） ・技術者の人材確保がなかなかできない。（自動車整備業） ・新型コロナウイルスの先行きが不明であり不安。５月以降のイベント中止等のキャンセルへの不安がある。直近のキャンセルもありますので不安ばかりです。昨年のふっこう割等は、低価格料金のところでは０枚でした。プレミアム商品券のような企画であればいいのですが。（旅館，ホテル） ・人手不足に対する施策を期待している。（産業用機械器具賃貸業） ・増税、売上停滞、残業規制、休日増加、人件費増加等非常に経営環境が厳しい中、新型コロナウイルス対策は労働者側の対策ばかり。中小企業経営者は、従業員以上に厳しい状況で会社存続のために働いている。経営者を守る政策が行われなければ、今後、経営難になる中小企業が増加する。（自動車整備業） ・新型コロナウイルスが早く終息しなければ、事業継続が難しくなる。（専門料理店（日本料理店）） ・新型コロナウイルス対策による自粛要請、風評被害に起因してのホテル･旅館の倒産が１件も出ることのないような対応を国と一丸となって素早く対応してください。特に損失補填は重要。中小企業の職員の給与補填を厚くしてほしい。雇用調整助成金の不足分を賄ってほしい。今は雇用を守るために企業への助成が必要。観光券･復興割旅館券は、新型コロナウイルス騒動が一段落してから対応してほしい。個人消費刺激策も同様で、今どき支給（政府の施策）の補助金で潤うのはネット業者だけ。大事なことは「雇用を維持するため」に中小企業へ補助すること。（旅館，ホテル） ・地域資本ホテル･旅館の利用増に対する助成と対策に力を入れてほしい。このままでは廃業施設が増えるばかりです。（旅館，ホテル） ・企業存亡の危機と考えています。（旅館，ホテル）
十 勝	・新型コロナウイルス感染症の影響による売上高減少対策が課題。早期終息宣言のために医療機関等の対応を実現してほしい。（食堂、レストラン（専門料理店を除く）） ・新型コロナウイルス撲滅のための厳しい規制と、経済の早期回復を願っています、だらだら状態は企業、個人にとっても結果が厳しくなるだけのように感じています。（旅館，ホテル） ・ここ数年、働き方改革に取り組んでまいりましたが、喫緊の課題としては同一労働同一賃金への対応があり、中小企業の弊社は来春までの見直しが必要で、時間がなくかなり危機感を抱いております。引き続き情報提供等の様々なご支援を期待しております。（土木建築サービス業（建築設計業）） ・新型コロナウイルス終息後の観光業･飲食業の需要喚起に期待している。（旅館，ホテル） ・施設の老朽化による補修工事の費用が必要だがコロナウイルスで売上が落ちた。（旅館，ホテル）

十 勝	・社員の新型コロナウイルス感染の防止及び感染した場合の治療に不安がある。（土木建築サービス業） ・90%以上の売上が減少し、長引けば経営破綻の可能性もある。資金繰りが厳しく、従業員の雇用維持ができない状態のため、解雇等の処置をとらざるをえない状況。低利子融資や景気対策をお願いする。消費税の大幅減税も望む。（旅館，ホテル） ・３カ月以上事態収束がなければ、企業維持が不可となる見通し。（旅館，ホテル）
釧路・根室	・ブライダル婚礼部門の売上が 90%位なので、婚礼の延期及びキャンセルとともに、親族などの美容技術売上が減少。スタッフがいるので大変不安です。（美容業） ・国の対策が遅い。道税（自動車税）の減税もしくは１年間無しにしてほしい。（労働者派遣業） ・新型コロナウイルスの影響で大きく売上が下がり、今後の対策が重要である。（旅館，ホテル） ・ホテルにとって消費税のポイント還元は全く何のメリットもなく意味の無い制度でした。手間と経費が増えてカード会社を儲けさせるだけ。これに投じた税金で消費税を上げなくても良かったのではと思っています。インバウンド・外資系・都市のホテルと田舎のビジネスホテルでは全くビジネススタイルが違うので、同じような税制になっていることに怒りを感じています。新型コロナウイルス感染症でビジネスホテルは潰れます。（旅館，ホテル） ・個人消費の落ち込みをどう回復させるか。韓国･中国のインバウンド効果の減少は当分続くと思われる。人員不足による人件費の高騰が課題。働き方改革を含めた人員の配置の検討が必要。消費税は減税すべき。（専門料理店）

8　業況感の長期推移



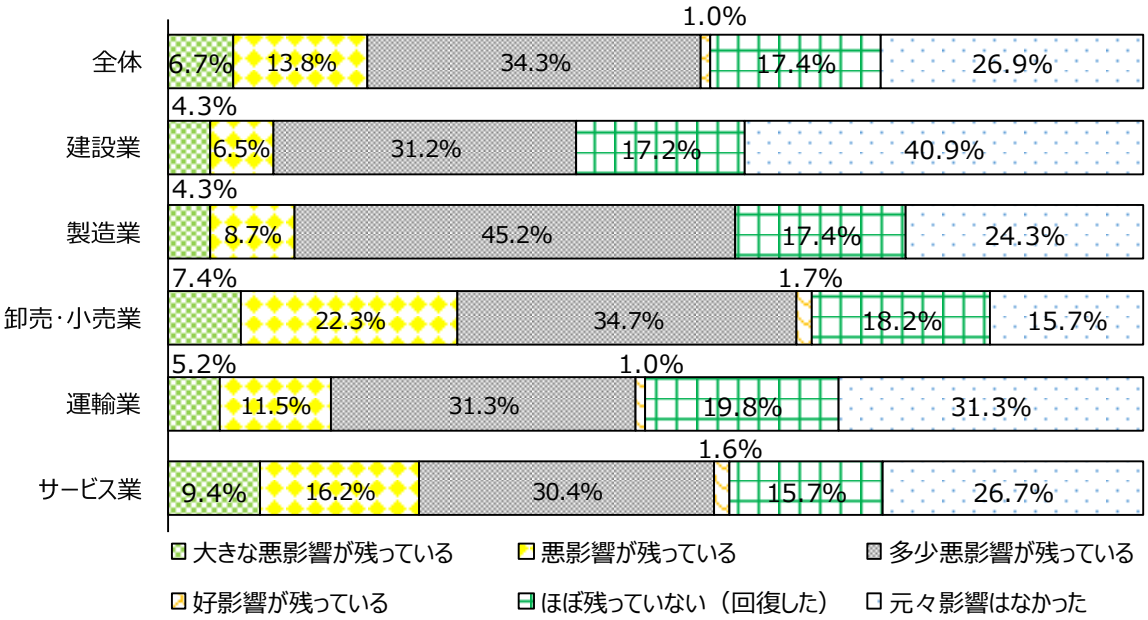
（注）Ⅰ～Ⅳは暦年の四半期を表す。
Ⅰ＝1～3月　Ⅱ＝4～6月　Ⅲ＝7～9月　Ⅳ＝10～12月
R2Ⅱは見込み

3　特別調査

1　令和元年 10 月における消費税率引き上げについて

（１）現在の業況への影響について

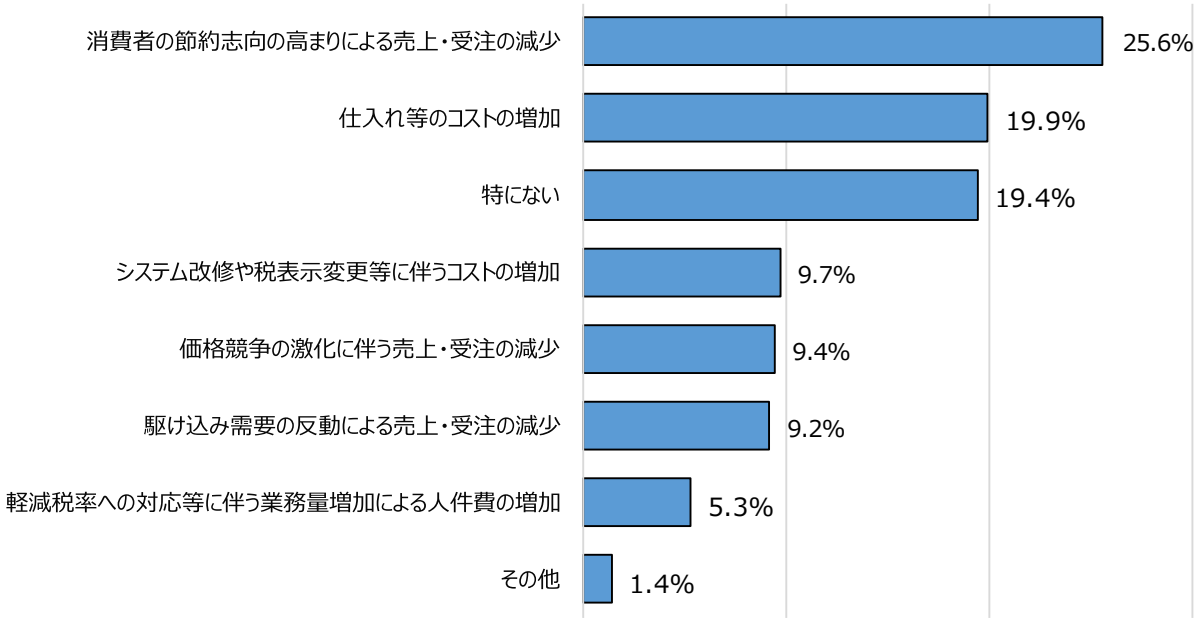
・全体で最も多かった回答は「多少悪影響が残っている」の 34.3%で、次いで「元々影響はなかった」が 26.9%、「ほぼ残っていない（回復した）」が 17.4%となった。



（２）具体的な影響について　※複数回答

・最も多かった回答は「消費者の節約志向の高まりによる売上・受注の減」の 25.6%で、次いで「駆け込み需要の反動による売上・受注の減」が 19.9%、「価格競争の激化に伴う売上・受注の減」が 19.4%となった。

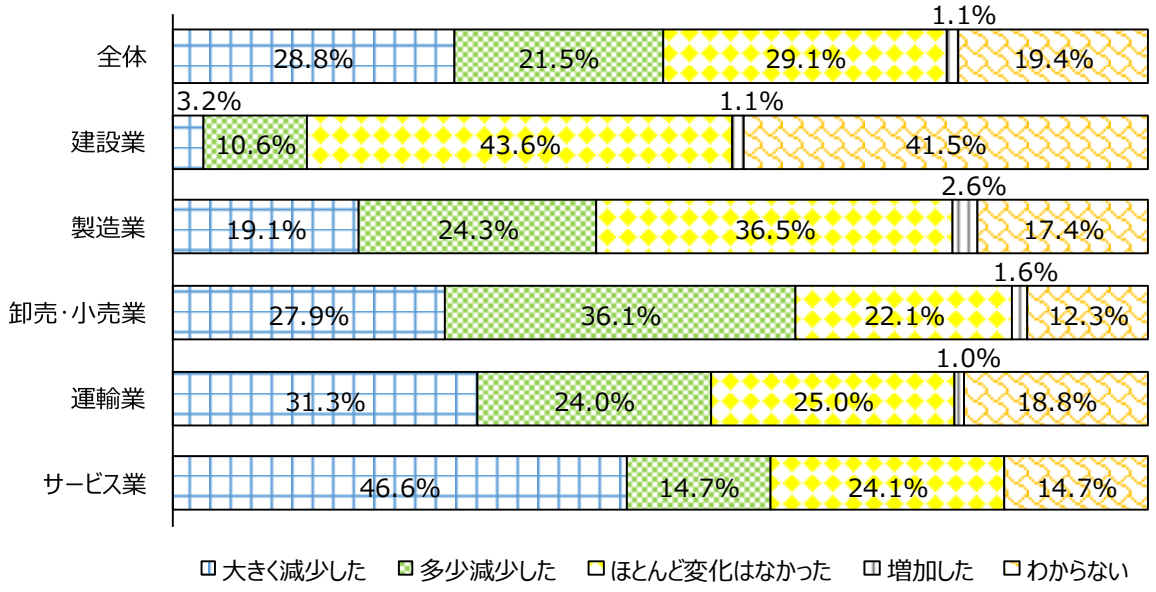
（※回答率は、回答総数を 100.0%としている。）



２　新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について

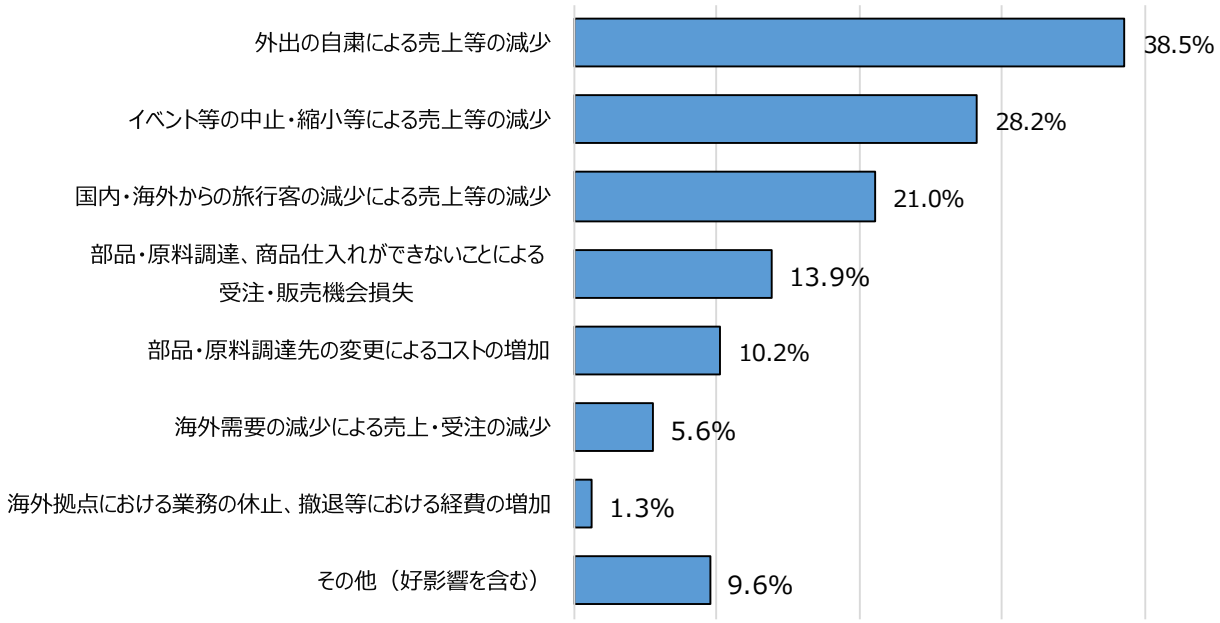
（１）売上・利益等への影響について

・全体では、「大きく減少した」が 28.8%、「多少減少した」が 21.5%と、合わせて 50.3%の企業が減少したと回答した。
・業種別では、「大きく減少した」はサービス業で 46.6%と最も高く、「大きく減少した」と「多少減少した」を合わせると、卸売・小売業で 64.0%と最も高くなった。



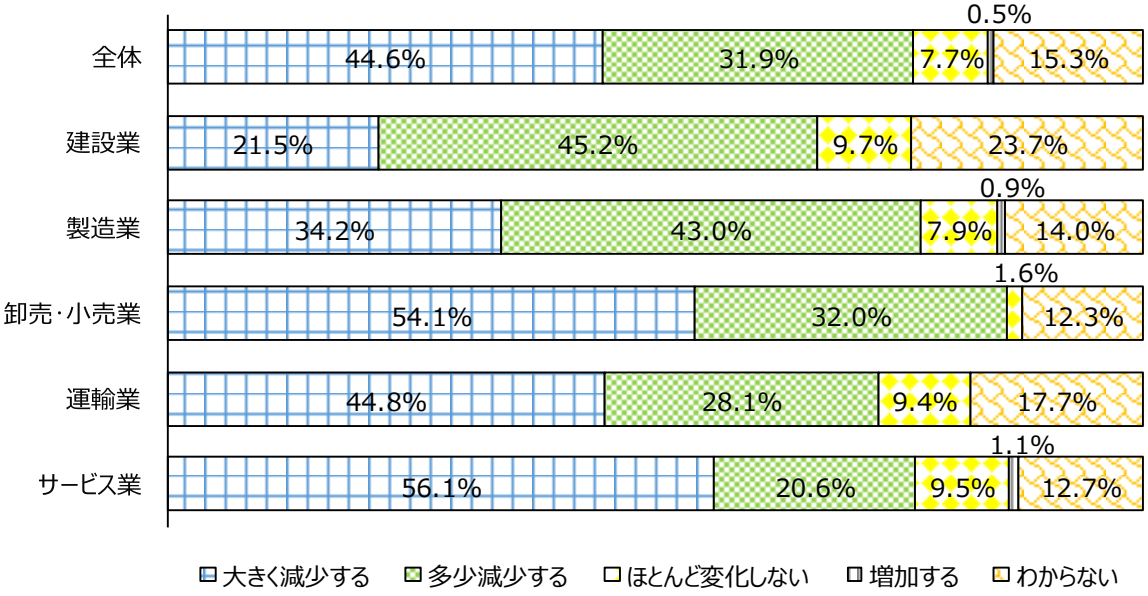
（２）具体的な影響について　※複数回答

・最も多かった回答は「外出の自粛による売上等の減少」の 38.5%で、次いで「イベント等の中止・縮小等による売上等の減少」が 28.2%、「国内・海外からの旅行客の減少による売上等の減少」が 21.0%となった。



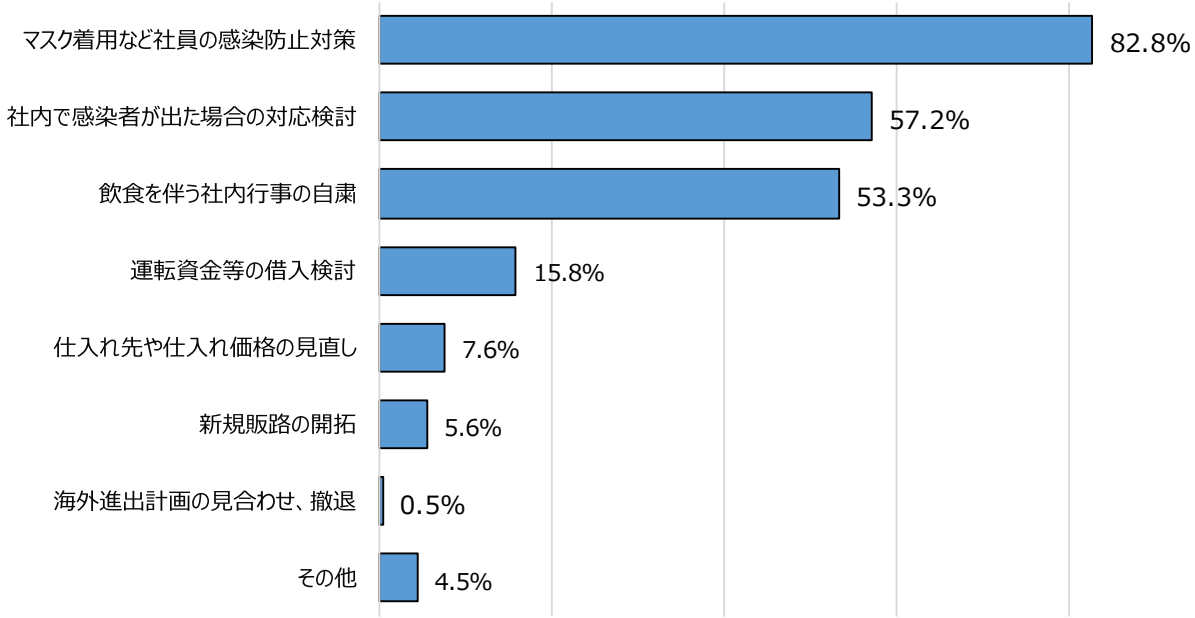
（３）流行が長期化した場合の売上・利益等への影響について

・全体では、「大きく減少する」が 44.6%、「多少減少する」が 31.9%と、合わせて 76.5%の企業が減少すると回答した。
・業種別では、「大きく減少する」はサービス業で 56.1%と最も高く、「大きく減少する」と「多少減少する」を合わせると、卸売・小売業で 86.1%と最も高くなった。



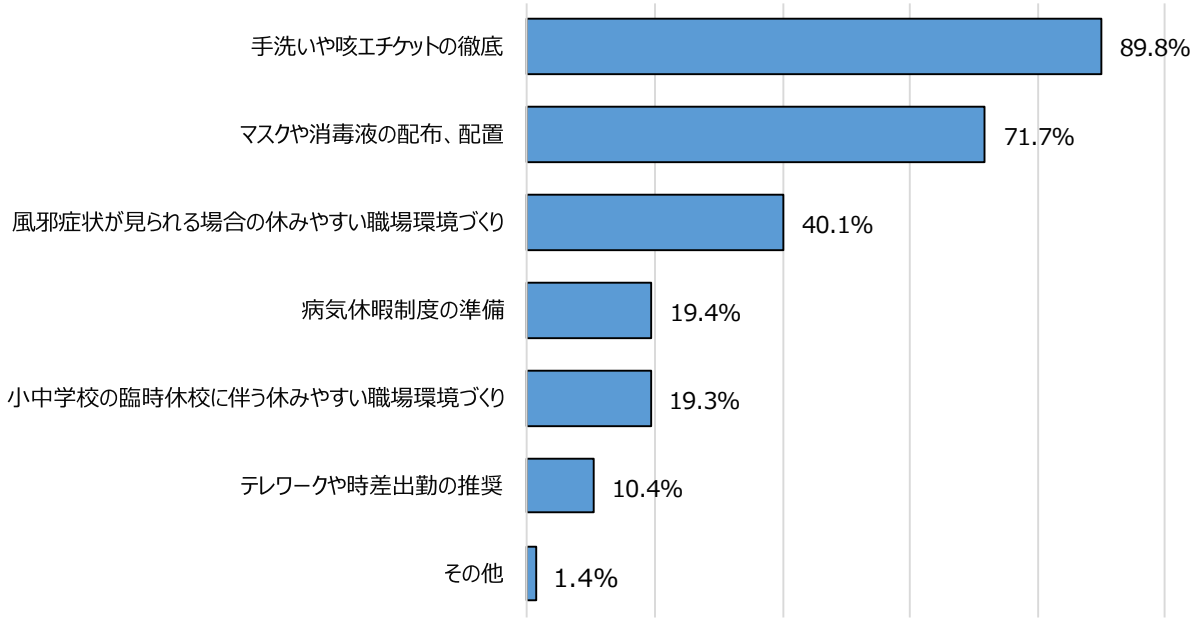
（４）行っている対策・対応（実施予定のものを含む）について※複数回答

・最も多かった回答は「マスク着用など社員の感染防止対策」の 82.8%で、次いで「社内で感染者が出た場合の対応検討」が 57.2%、「飲食を伴う社内行事の自粛」が 53.3%となった。



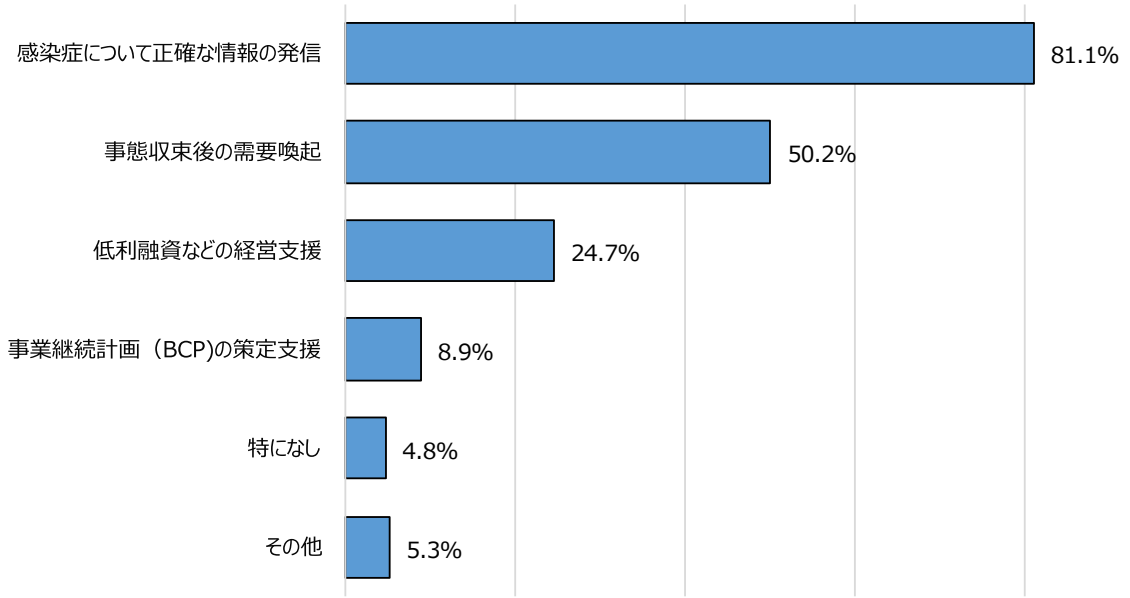
（５）労働環境の配慮にかかる対応について※複数回答

・最も多かった回答は「手洗いや咳エチケットの徹底」の 89.8%で、次いで「マスクや消毒液の配布、配置」が 71.7%、「風邪症状が見られる場合の休みやすい職場環境づくり」が 40.1%となった。



（６）行政（国・道等）に対する要望・意見について※複数回答

・最も多かった回答は「感染症について正確な情報の発信」の 81.1%、次いで「事態収束後の需要喚起」が 50.2%、「低利融資などの経営支援」が 24.7%となった。



4　調査方法

１　調査内容

道内の企業経営者に対し、自社の経営状況や景気の見通し、経営を取り巻く環境変化などについて四半期毎に調査を実施

２　調査時点

令和２年３月31日

３　調査方法

「郵送」又は「インターネット」によるアンケート調査

４　調査対象及び回答企業数

区　分		調査対象企業数（A）	回答企業数（B）	回答率（B／A・%）
総　計		**900**	**628**	**69.8**
	札幌市を除く	700	494	70.6
	札幌市	200	134	67.0
業種	建設業	125	95	76.0
	製造業	150	115	76.7
	卸売･小売業	189	127	67.2
	運輸業	131	96	73.3
	サービス業	305	195	63.9
資本金	5千万円未満	617	421	68.2
	5千万以上～1億円未満	157	117	74.5
	1億円以上	126	90	71.4
地域	道南	109	83	76.1
	道央	382	250	65.4
	札幌市を除く	182	116	63.7
	札幌市	200	134	67.0
	道北	132	95	72.0
	オホーツク	89	68	76.4
	十勝	94	68	72.3
	釧路・根室	94	64	68.1

（注）［道南］・・・・・渡島総合振興局、檜山振興局
［道央］・・・・・空知総合振興局、石狩振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局
［道北］・・・・・上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局
［オホーツク］・・オホーツク総合振興局
［十勝］・・・・・十勝総合振興局
［釧路・根室］・・釧路総合振興局、根室振興局

５　ＢＳＩ（Business Survey Index）指標について

この調査では、企業経営者の業況感等について、当該四半期の状況を前年同期と比較して（景況感は前期）、「上昇」「横ばい」「下降」の選択肢により調査し、各ＢＳＩ指標を次により算出。

ＢＳＩ＝（「上昇」とする企業の割合（%））－（「下降」とする企業の割合（%））
（－100≦ＢＳＩ≦100）

【計算例（企業数：200社）】

業況感について、「上昇」とした企業20社、「横ばい」とした企業120社、「下降」とした企業60社の場合

$$\frac{20\text{社}}{200\text{社}}\times 100 - \frac{60\text{社}}{200\text{社}}\times 100 = 10\% - 30\% = -20$$

よって、この場合の業況感ＢＳＩはマイナス20　※小数点以下の端数がある場合は四捨五入

その先の、道へ。北海道

企業経営者意識調査（第 125 回）

令和２年５月発行

編集・発行北海道経済部経済企画局経済企画課
ＴＥＬ011-204-5139

「企業経営者意識調査」の結果は、経済企画課のウェブサイトでもご覧いただけます。

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/bsi.htm